

2023



TOKOHA
UNIV.

常葉大学 地域貢献センター 活動報告



■目次

巻頭言	2
【特集 1】 とこは人材育成プロジェクト	3
【特集 2】 常葉大学 ×SDGs	4
【特集 3】 ポストコロナ期における保育者を目指す学生の奮闘	5
大学と地方自治体等との包括連携協定	7
包括連携協定先一覧	
包括連携協定先との連携事例	
表彰	14
公開講座	15
とこは未来塾－TU can Project－	17
地域交流・連携推進事業（学内助成事業）	19
地域連携活動の事例紹介	20
学外の助成事業を活用した連携事業	32
外部団体への講師派遣	33
地域貢献センターのご案内	34
学生団体紹介（静岡キャンパス）	35
学生団体紹介（浜松キャンパス）	37

巻頭言

常葉大学・常葉大学短期大学部

学長 江藤 秀一



本学は静岡県内二大都市の静岡市と浜松市にキャンパスを有し、地域貢献を教育理念の一つに掲げ、それぞれのキャンパスにおいて、公開講座をはじめ、地方自治体等との連携事業や学生のボランティア活動等を活発に行っています。令和4年9月から本学ホームページにて公開しています本学学生団体及び教職員によるSDGs活動を紹介する「地域とともに持続可能な社会の実現へ」も、本年3月で94回となりました。今後も持続可能でよりよい社会を目指す取り組みを積極的に行い、情報を発信することによって地域のSDGs活動に貢献してまいります。また、学生の地域貢献活動を支援する「とこは未来塾 —TU can Project—」に加えて、県内高校生の人材育成に資することを目的とした「とこは人材育成プロジェクト for High School」を次年度から開始します。このプロジェクトは県内高校生にボランティア活動の機会を提供し、所定の要件を満たすと静岡県教育委員会主催の「静岡県青少年指導者(初級)」を認定するというものです。

今後も地域の皆様に貢献できますよう、県内の高校とも連携し、地域貢献活動を推進してまいります。どうぞ引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

常葉大学地域貢献センター

センター長 木村 佐枝子



新年早々に発生した「令和6年能登半島地震」で被災されたみなさまには、心からお見舞い申し上げます。本学では各キャンパスの学生たちが自主的に学内外で募金活動を実施しました。今後は長期休暇を利用し被災地での活動に移行していくことになります。2023地域貢献センター活動報告の発刊にあたり、今期は「常葉大学×SDGs」の発信の取組がメディアに取り上げられ、広く常葉大学の地域貢献活動とSDGsを紐づけた活動を紹介することができました。また、静岡県教育委員会と連携した「とこは人材育成プロジェクト」を全学化し、地域で活躍するリーダーの育成を目指したプログラムを展開しています。令和6年度には高校生を対象にした「とこは人材育成プロジェクト for High School」を高大接続の一環としてスタートすることとなります。さらに、全キャンパスで取り組むフードドライブも定期的な活動として定着してきています。「地域貢献」は本学の大きな強みであり、これらをさらに継続、発展させていくことは地域社会に期待される学生を送り出すための「大きな使命」であると考えています。地域と学生、教職員をつなぎ、地域との連携・協働をすすめていくために地域貢献センターはその役割を果たしていきたいと思います。今後とも、本学の地域貢献活動へのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

【特集1】 とこは人材育成プロジェクト

「とこは人材育成プロジェクト」は、学生が地域での活動に参加するきっかけづくりを1つの目的としており、今年度から全キャンパスで実施しています。本学学生をはじめとする参加者の日頃の地域貢献活動やボランティア活動を評価し、静岡県教育委員会が主催する「静岡県青少年指導者」として認定される事業です。

■ 第1回研修会・第2回研修会

第1回研修会では、地域貢献センター長 木村佐枝子教授(健康プロデュース学部 心身マネジメント学科)が講師を務め「ボランティア活動・地域貢献活動の意義と心構え」と題し、静岡県教育委員会が指定する「青少年活動の意義を理解する研修」として行われました。



第2回研修会では、災害時のリハビリテーションを専門とする村岡健史講師(保健医療学部 作業療法学科)が「危険予知トレーニング、AEDの使用法」と題し、静岡県教育委員会が指定する「青少年の活動における安全対策を理解して、緊急時に速やかに対応するための研修」として行われました。

■ 報告会・修了式

3月7日、「令和5年度とこは未来塾—TU can Project—事業報告会」に併せて「とこは人材育成プロジェクト実施報告会」を開催しました。報告会では、プロジェクトの趣旨説明、初級・中級取得予定者による事例紹介が行われました。



また、修了式は、各キャンパスにて行われました。

静岡県青少年指導者級別認定事業
初級認定者

法学部 法律学科

1年 芝田 光加里 さん



法学部では静岡に関連した授業が多いので、地域をより知るために地域の活動に参加したいと思い、このプロジェクトに参加しました。主にイベント関連の活動に参加しましたが、特に印象に残っているのはビブリオバトルの運営補助です。活動後、帰りに本屋に寄るほど高校生の発表に影響されました。活動の中で幅広い世代や職業の人と関わることで、自分が今まで知らなかったことやコミュニティに触れることができました。また、自分がボランティアとして参加して初めて、誰かのおかげで「当たり前」が成り立っているということに気づくことができました。今後は環境や医療関係のボランティアに参加してみたいです。



静岡県青少年指導者級別認定事業
中級認定者

健康プロデュース学部

健康栄養学科

2年 神戸 陽向 さん



1年時に初級を取得し、よりレベルアップした中級に挑戦したいと考えこのプロジェクトに参加しました。主にボランティアサークルThunderBirdsの代表として、地域の人々の防災意識を高めてもらうために、防災ホイッスルの飾りつけ体験や災害食体験ブースの企画・運営を行いました。初めて実施する活動であったためサークル内での話し合いや試作等多くの時間を費やしました。活動を通して、仕事を分担することや「何を」「いつまでに」行うのかをあらかじめ決めておく計画性の大切さを学ぶことができました。今後は、リーダーに必要な活動しやすい環境を作ることを意識して、来年度のサークル活動や学科の実習に生かしていきたいです。



【特集2】常葉大学×SDGs

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年の国連サミットで採択された、持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべきゴールを定めた国際目標です。昨今、学校教育のなかでは「SDGs」に対する啓発だけでなく、それぞれの目標に対して、具体的にどう取り組むかが検討され、目標達成のための取組が行われています。本学でも、地域貢献活動を通じ、社会課題へ積極的に取り組み、持続可能な社会への貢献を目指しています。

■ SDGs への取組事例

常葉大学フードドライブ

地域貢献センターでは、今年度2回、全キャンパスでフードドライブを実施しました。フードドライブとは、家庭で余っている食品を集めて、生活困窮者支援団体や子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動です。草薙・瀬名・水落キャンパスでは、学生有志、学友会が中心となって実施し、集めた食品はフードバンクふじのくにへ寄付しました。また、浜松キャンパスでは、ボランティア活動を積極的に行う学生団体「ココスタ」が中心となって実施し、集めた食品は浜松市社会福祉協議会北地区センターへ寄付しました。



地域貢献活動の取組事例発信「常葉大学×SDGs ー地域とともに持続可能な社会の実現へ」

本学は、教育理念の1つとして「地域貢献」を掲げ、多くの学生や教職員が積極的に地域貢献活動を行っています。それらの活動をSDGs(持続可能な開発目標)と紐づけて可視化し、発信することで、本学全体で世界的な課題に取り組んでいること、学生および教職員またすべての方がSDGsに取り組む当事者になりうることへの理解を深めています。令和4年9月から活動の事例を大学ホームページ等で紹介しています。

常葉グリーン・プロジェクト

本学では、学友会・学生評議員会が主体となってSDGsに取り組んでいます。その活動の1つとして、「常葉グリーン・プロジェクト」を実施しました。この活動は、環境保全やSDGsについて関心を高めるきっかけづくりとして行っています。草薙キャンパスでは、自習場所を分散させないため一部施設の使用を中止したり、浜松キャンパスでは、校内放送やプラカードを持って「節電」を呼びかけながら電気やエアコンの消し忘れがないか確認しました。このプロジェクトを通じて、教職員・学生一人一人が「環境問題」について意識することができました。



■ 各種掲載

今年度は本学のSDGsの取組に関心が寄せられ、下記に掲載されています。

- ・リクルート「カレッジマネジメント」
- ・LIVIKA「SDGs 大学プロジェクト×Tokoha Univ.」

大学HPはコチラ		リンクはコチラ	
地域貢献活動の 取組事例発信企画		リクルート 「カレッジマネジメント」	
		LIVIKA 「SDGs 大学プロジェクト × Tokoha Univ.」	

【特集3】ポストコロナ期における保育者を目指す学生の奮闘



新型コロナウイルス感染拡大は、人々の生活に大きな変化をもたらしました。保育者を目指す学生にとっては実践活動の場がありませんでしたが、行動制限がなくなった今、少しずつ地域での活動の場が広がってきました。

共働き世帯の増加、少子化や核家族化、地域の繋がり希薄化により、保育現場に求められることが多くあります。

常葉大学には、保育学部保育学科、健康プロデュース学部こども健康学科、短期大学部保育科があり地域に根差す保育者を育成しています。

地域や保育現場の課題に対し、本学の学生が実施した様々な活動を紹介します。

自然体験の機会を提供するキッズイベントを開催 / 健康プロデュース学部こども健康学科

健康プロデュース学部こども健康学科では、子どもが自然の中で遊びながら健やかに成長することを願い、保育者を目指す学生自身が自然体験から理論を学び、実践力を身に付けるため「自然あそび」「自然環境基礎演習」といった自然系授業を設けています。これらはほかの保育士養成課程・幼稚園教諭教職課程にはない、特色あるカリキュラムです。

授業で学んだことを活かして、11月には掛川市にある田園空間博物館・南遠州とうもんの里総合案内所で「あつまれ、わんぱくキッズ！とうももん秋のキッズフェス」を開催しました。このイベントでは、こども健康学科の学生と静岡大学地域創造学環フィールドワークの学生との共催で農村の伝統文化と田園風景を次世代へと伝えることを目的に遊び場を提供しました。

当日は「田・食・音」の3つのテーマのもと音楽ブースを担当し、楽器を作って演奏したり、音楽に合わせて踊ったりしました。また、昔ながらの稲を干す「稲架掛け」によじ登ったり、竹を使用したおもちゃで遊んだり、子どもたちと自然の豊かさを体験しました。このほか様々な地域活動や子どもたちとの触れ合いを通して実践的に学び、豊かな人間性を備えた保育者を育成しています。



少子化対策を考える赤ちゃんフォトコンテストを開催 / 健康プロデュース学部こども健康学科

健康プロデュース学部こども健康学科では、浜北副都心にぎわいづくり協議会（少子化対策部会）と連携し、少子化対策イベント等を開催しています。10月にはプレ葉ウォーク浜北で「赤ちゃんフォトコンテスト」の表彰式が行われました。当日は学生7名が浜北区役所・区振興課と連携し、会場の設営、装飾、受付や座席誘導、また表彰式での司会進行やプレゼンターの補助を行いました。表彰式の前にはパネルディスカッションが行われ、市議会議員や商工会議所の方、児童精神科の医師の中に交じりパネラーとして学生2名が参加し、「こどもは地域の宝もの」というテーマのもと、子育てや少子化対策について語り合いました。

学生たちにとって、パネルディスカッションやイベント運営を通して少子化について考えるきっかけとなりました。



ことばや発達に課題のある子どもたちへのあそび場を提供するひまわり講座を開催 / 保育学部保育学科

保育学部保育学科では、ことばや発達に課題のある子どもたちへの「遊びと学びの場」として、ひまわり講座を毎年開催しています(主催:静岡県ことばと心を育む会にこっと静岡、後援:常葉大学)。今年度は、3月3日に行い、幼児から小学生の子どもたち8家族12名が参加しました。

学生企画のスタンプラリー「勇者になって敵を倒せ! いざ秘宝探しの旅へ」では、勇者に扮した子どもたちがペアの学生と協力して敵を倒し、秘宝のかけらを集め、最後には自分だけの宝物を手に入れる活動を楽しみました。初めての場所や活動が苦手な子もいましたが、工夫をし、どの子も積極的に参加することができました。初対面の学生と話し合いながらミッションをクリアする子どもの様子に、保護者からは驚きや喜びの声も届きました。手を繋いだり、顔を寄せ合って笑い合ったりすることのできるポストコロナ期。その心地よい距離感は、保育者を目指す学生にとって大いなる励みとなりました。



地域の子どもたちへ「楽しさ」を提供するとことこサマーフェスティバルを開催 / 短期大学部保育科

短期大学部保育科では、子どもと一緒に生活を考え続ける情熱を持った感性豊かな保育者を養成しています。

7月18日・19日の2日間にわたり、短期大学部保育科の学生が「楽しさ」のやりとりを通して地域の子どもたちに明るい気持ちになってもらいたいと願い、乳幼児を対象とした「とことこサマーフェスティバル」を開催しました。とことこサマーフェスティバル全体のコーディネートは、「レクリエーション援助法」の授業の受講学生が担当しました。また、草薙キャンパスの芝生広場には、学生が「乳児保育演習」「レクリエーション論」の授業内で、教材研究で作成した「戸外で楽しめるあそびコーナー」を日替わりで出展し、乳幼児や保護者の方に楽しんでいただきました。猛暑の2日間でしたが、芝生広場の木陰には涼しい風も吹き渡り、子どもたちの歓声が響く楽しい夕涼みのひと時となりました。学生にとっても、日々の学びを実践する良い機会となりました。



子育て世代の親子の交流の場を提供する子育て支援プロジェクトを開催 / 保育学部保育学科・短期大学部保育科

保育学部保育学科と短期大学部保育科の教員・学生は、地域の子育て世代の親子を対象とした「子育て支援プロジェクト」を、草薙キャンパスの子育て支援室を中心に全5回開催しました。

7月に開催した「保護者のしゃべり場」では、「最近の子育てでうれしかったこと・困ったこと」をテーマに、保護者と学生が自由に話しました。話をする中で、保護者の日常における様々な楽しみや困りごとが語られ、実際に保護者の話を聞く経験は学生にとっても学びの機会となりました。また、当日は、子ども向けのあそび場のほか、屋外には水遊び用のプールも準備し、保護者が落ち着いて話ができるように工夫しました。8月には、地域の子育て世代の親子10組を迎えて「シャボン玉あそび」を行いました。参加した子どもたちは、お父さんやお母さんの真似をして、道具を使って試行錯誤しながら楽しく遊んでいました。学生たちも、子どもたちの様子に反応しながら触れ合う中で、親子の関わりに寄り添うことの大切さを学ぶことができました。今後も、様々な人と人との関わりながら、子どもを中心に共に考え共に育ちあう場を築いていきたいと考えています。



大学と地方自治体等との包括連携協定

地域の特性およびニーズに応じた地域連携・交流事業を展開するため、地方自治体、各種団体等との連携・交流協定の締結をしています。双方の持つ経営資源を活用し、地域課題の解決に貢献しています。

包括連携協定先一覧

No.	協定書の名称	協定締結先	協定締結日
1	松崎町と常葉大学との包括連携に関する協定書	松崎町	平成27年10月13日
2	掛川市と常葉大学との包括的連携に関する協定書	掛川市	平成27年11月13日
3	藤枝市と常葉大学との包括連携に関する協定書	藤枝市	平成28年 3月24日
4	静岡市と常葉大学との包括連携に関する協定書	静岡市	平成28年 6月14日
5	浜松市と常葉大学との包括連携に関する協定書	浜松市	平成29年 3月27日
6	特定非営利活動法人掛川市体育協会と常葉大学 浜松キャンパスとの連携に関する協定書	特定非営利活動法人 掛川市スポーツ協会	平成29年 9月15日
7	常葉大学とI Love しずおか協議会との連携・協力に関する協定書	I Love しずおか協議会	平成29年10月26日
8	静岡市文教エリア等の発展に向けた相互協力に係る協定書	静岡市内の 複数高等教育機関等	平成29年10月26日
9	公益財団法人浜松市体育協会と常葉大学との 連携に関する協定書	公益財団法人 浜松市スポーツ協会	平成30年 7月27日
10	常葉大学と静岡銀行との相互協力及び連携に関する協定書	株式会社 静岡銀行	平成30年 8月28日
11	常葉大学と静岡県警察との包括的連携協力に関する協定書	静岡県警察	平成30年11月 1日
12	学生ボランティア活動推進に関する協定書	公益財団法人 日本財団 学生ボランティアセンター	令和元年12月16日
13	常葉大学と静岡県教育委員会との 探究的な学習に関する連携協定書	静岡県教育委員会	令和 6年 3月12日

包括連携協定先との連携事例

■ 松崎町

石部棚田の保全活動を実施し、「つなぐ棚田遺産」感謝状を受賞

草薙 C

本学では、包括連携協定を締結する静岡県松崎町において、社会環境学科の学生有志を中心に「石部棚田」の保全活動に取り組んでいます。毎年、多くの学生が活動を続けてきた結果、令和5年には20周年を迎え、昨年度に引き続き今年度も延べ200人強もの学生が活動に参加しました。今年度の活動のうち特筆すべきは宿泊による活動を再開したことです。新型コロナウイルス感染症が拡大して以来、往復6時間以上もかかる日帰りでの活動を余儀なくされておりましたが、日帰りの移動に伴う時間の制約がなくなり、石部でのゆとりある活動を再開できました。民宿での宿泊は、石部地区が誇る豊



かな海の幸、山の幸や郷土料理を通して地域を知ることにつながり、参加した学生同士の絆を深める良い機会ともなっています。このような長期にわたる活動が評価されて令和6年1月にはこの活動に対して農林水産省より本学に対して「令和5年度『つなぐ棚田遺産』感謝状」および「令和5年度『つなぐ棚田遺産』特別感謝状」が贈呈されました。受賞に際して松崎町長をはじめ関係者の方々からもお祝いのメッセージをいただき、これまで参加してきた学生たちの活動が社会的に評価されたことは大変喜ばしいことです。今後も継続して保全活動に取り組み、伝統技術の継承や地域の発展に貢献していきます。



■ 掛川市

マイクラフトで高天神城を再現

瀬名 C

造形学科の学生有志 6 名が掛川市と協働し、掛川市にある国指定史跡「高天神城跡」の戦国時代の様子をマイクラフト上で再現しました。高天神城とは、戦国時代に徳川軍と武田軍が攻防戦を繰り広げたとされる歴史的価値の高い山城です。しかし、現地に足を運ぶ人が少なく、特に若年層からの認知度が低いという課題があります。そこで、大人気サンドボックスゲーム「マイクラフト」を通して、若年層をはじめとした多くの人々に高天神城の認知度を拡大するためのプロジェクトが始動しました。学生は実際に現地へ足を運んで高天神城の魅力を体感し、静岡県が公表している三次元点群データや掛川市所蔵の模型・資料を活用しながらマイクラフト上で高天神城を再現しました。



完成したヴァーチャル空間は 10 月 1 日に掛川市役所で開催された「デジタルの日」のイベントにて、久保田崇掛川市長にお披露目しました。当日は、市長率いる掛川市役所軍 vs 常葉大学造形学部学生軍の 2 チームに分かれて攻城戦を行い、市長に高天神城ワールドの魅力をアピールしました。加えて 10 月 29 日に掛川市のハロウィンイベント「掛川百鬼夜行」において、高天神城ワールドでスタンプラリーが遊べるブースを出展しました。さらに、12 月 24 日には、デジタルスクール事業を手掛けるデジタネの協力のもと、コラボレーションスペース Takt にて、子ども向けイベントを開催し子どもたちに高天神城ワールドの魅力を伝えました。



これらの活動の中で、子どもたちから「高天神城について知らなかったけれど、実際に行ってみたいと思った」という声が多く聞かれ、これまで高天神城と接点がなかった子どもたちに、高天神城跡に興味を持ってもらうきっかけを作ることができました。

■ 藤枝市

地域政策研究・創造事業 成果報告会で最優秀賞受賞

草薙 C

2 月 29 日に開催された「藤枝市地域政策研究・創造事業成果報告会」において、本年度採択された 6 大学 7 研究（静岡大学・静岡県立大学・静岡理工科大学・静岡福祉大学・静岡産業大学・常葉大学）の中で造形学部田宮ゼミ 10 名の成果報告が最優秀賞を受賞しました。この事業は藤枝市と包括連携協定を結ぶ県内大学を対象に、地域課題の解決に向けた解決方法の提言または実践的な研究を学生の主体的な参画により行う事業に対して助成が行われるものです。田宮ゼミでは「岡部町の歴史文化や町としての魅力を体験するための散策プラン及びマップの提案」と題して研究を行い、藤枝市岡部町の中の 3 つの特色あるエリアでフィールドワークを重ね、計 10 案の散策プランとマップを制作しました。報告会では、研究成果の発表とともに、河野一行副市長や市の関係部局長に対して提言を行い、関係者から高い評価をいただきました。



「しずおか中部“未来学”」にて 高校生へ講演

草薙 C

経営学科野田昌太郎准教授が、藤枝市・藤枝市大学ネットワーク会議主催「令和 5 年度 6 大学連携共同講座しずおか中部“未来学”～ポストコロナの地域の未来～」にて高校生向けに講義を行いました。地域の高校生に幅広い分野の知見を与え、自ら将来を切り拓く人材を育てることを目的として開催された本講義において、野田准教授は「君の身近にある地域のマーケティング活動」というテーマで講義を行い、地域企業の実際の商品を事例に企業のマーケティング戦略を紹介しました。ポストコロナの外出先でのレジャーや食事にまつわる商品のマーケティング活動といった講演について、参加した高校生は熱心に耳を傾けていました。



■ 静岡市

静岡市内の生涯学習施設と連携し、公開講座を開催

草薙・水落 C

静岡キャンパスでは、静岡市内の生涯学習施設と連携して、地域性や受講生のニーズに合わせた講座を毎年開催しています。今年度は、7月～12月にかけて以下の6つの講座を開催しました。

令和5年度 共催公開講座 開催一覧

No.	共催先	講座タイトル	所属	講師
1	興津生涯学習交流館	ディスカバー静岡	教育学部 初等教育課程	教授 井上 亘
2	薬科生涯学習センター	アジア諸国の現状から 国際関係を考える	外国語学部 英米語学科 グローバルコミュニケーション学科	教授 崔 慶原
				教授 小池 理恵
				教授 戸田 裕司
3	西部生涯学習センター	美しい姿勢講座	健康科学部 静岡理学療法学科	准教授 中村 浩一
				准教授 栗田 泰成
4	東部生涯学習センター	認知症予防講座	健康科学部 静岡理学療法学科	准教授 塚本 敏也
5	北部生涯学習センター	世界情勢からみた 日本経済について	経営学部 経営学科	准教授 土村 宜明
				准教授 林 信濃
				准教授 弘田 祐介
6	北部生涯学習センター美和分館	英語で読み解く国際ニュース	外国語学部 英米語学科	准教授 新妻 明子

受講者からは、「科学的な難しい話でも実践と理由を基に話してくれてとても分かりやすかった」「いろいろな視点で説明してもらったことで、知識や視野が広がった」等、大変ご好評いただきました。地域の皆様の学びの一助となるよう、来年度以降も継続して開催していきます。

静岡市制施行20周年
記念式典にて未来へ提言

草薙 C

11月4日、静岡市民文化会館で開催された「静岡市制施行20周年記念式典」にて、生涯学習学科4年の山本洵生さん、社会環境学科3年の宮城嶋開人さんが「静岡市長と若者のクロストーク」コーナーに登壇しました。

「未来に引継ぎたい市の魅力」「30年後の市の未来像」をテーマに難波静岡市長を交えて意見交換が行われ、山本さんは社会貢献活動への積極的な参加、宮城嶋さんは三保地区の景観保全活動といった各自の経験をもとに提言を行い、難波市長からも大きな期待の声が寄せられました。



テレワーカーへのプロモーション及び誘致策を提案

草薙 C

経営学科小豆川ゼミでは、令和5年度しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業の採択を受け、静岡市の魅力発掘と移住・定住促進策のPBL（課題解決型学習）に取り組みました。2月17日には「静岡市って、どんな街？日帰り移住体験ツアー」（主催：静岡市・常葉大学）を企画し、静岡と草薙周辺の散策、住宅物件の紹介、ランチ、日本平夢テラス・久能山東照宮の観光、移住者との交流会を実施しました。ゼミ生は半年以上前からグループに分かれて準備を進め、日本旅行静岡支店長からはプロ目線でのツアーのあり方について指導を受け、静岡市担当者からは行政目線での助言をいただく等、企画段階から多くのことを学びました。実際の移住検討者に向けて課題解決を実践する貴重な経験となりました。



■ 浜松市

大学生による講座を開催

浜松 C

浜松キャンパスでは、浜松市と連携・協力し、各地域の協働センター等で「大学生による講座」を開催しています。日頃の学びや専門性を活かしながら地域社会の生涯学習の推進に取り組み、市民と大学生が互いに自己の学びを深めることを目指して実施しています。

令和5年度 浜松市と大学との連携事業 開講講座一覧

No.	講座名	学生所属	団体名	開催箇所
1	ポッチャを楽しみながら学ぶ	保健医療学部 理学療法学科・作業療法学科	障☆スポ SC	3 箇所
2	チャレンジ・バレーボール	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	スポーツサイエンス スクール	3 箇所
3	めざせアスリート 走る、跳ぶ、勝つための筋肉の動き	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	井口ゼミ	2 箇所
4	あなたのお金を守る！特殊詐欺すごろく講座	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	木村ゼミ	3 箇所
5	食事のバランスを見極める力をつけよう	健康プロデュース学部 健康栄養学科	池谷ゼミ	1 箇所
6	おさかな探検隊～魚料理に挑戦しよう～	健康プロデュース学部 健康栄養学科	小嶋ゼミ	1 箇所
7	自分でできるセルフケア	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	SinQ	3 箇所
8	親子で Let's dancing !!	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	井口ゼミ	1 箇所
9	自分の歩き方、再発見！	保健医療学部 理学療法学科	松村ゼミ	1 箇所
10	スヌーズレン：ひかる紙芝居・絵本を楽しもう	保健医療学部 作業療法学科	学生有志	1 箇所

サーラ音楽ホールにて講座を開催

浜松 C

浜松キャンパスでは、令和3年度より浜松キャンパス近くに開設された「サーラ音楽ホール」（浜松市）と連携し、大学のもつ専門性や知的財産を地域に還元するプログラムを提供しています。今年度は5講座を開講し、地域の方々の健康増進に役立つ講座を提供しました。

10月2日には、『『健幸』づくり運動講座～トコハ大学生から学ぼう～』が行われ、学生10名が講師を務めました。

講座は3部構成で行われ、地域の住民38名が参加しました。まず、心身マネジメント学科の井口睦仁講師が「健幸華齡ってなに」と題して、健康で幸せに歳を重ねるための秘訣を講演しました。次に、学生がロコモティブシンドローム予防のための運動を指導しました。最後に、レクリエーション・スポーツとして人気のある「棒サッカー」を4チームに分かれて対戦し、大いに盛り上がりました。そのほか、地域の子どもたちを対象とした講座等も行われました。

令和5年度 サーラ音楽ホール連携事業 開講講座一覧

No.	講座名	所属	講師
1	健幸づくり運動講座	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	講師 井口 睦仁
2	幼児・児童英語： 英語で楽しく歌って遊びましょう！	健康プロデュース学部 こども健康学科	准教授 福田 鈴子
3	「カブラ®」ブロックを積んで遊びましょう	健康プロデュース学部 こども健康学科	特任講師 阿部 真弓
4	ツボをつかったセルフケアを体験しよう	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	准教授 村上 高康
5	音楽を身体中で感じてリフレッシュ！！	健康プロデュース学部 こども健康学科	非常勤講師 平松なをみ

8 大学が連携して開催する 浜松市民アカデミーにて講義

浜松 C

10月25日、浜松市地域情報センターにて健康栄養学科の池谷昌枝教授が、「今から始める～アクティブエイジングのための『知的食生活』のすすめ～」と題し、活動的で「健康な高齢化」を支える食事について講義しました。これは、市民の生涯学習の機会創出のために浜松市が開催し、市内の大学が1講座ずつ担当するオムニバス形式で行われています。



講義では、まず健康的な食生活を送るために気をつけたい10項目を掲げ、規則的な食事リズムや糖質過剰摂取への注意が必要となること、また、食物繊維や腸内細菌等についても説明されました。池谷教授は、自ら健康を創り出すことが「アクティブエイジングのための道である」と講義を結びました。

学生が浜松の未来を語る 取材に対応

浜松 C

浜松市の区再編に伴い、浜松市広聴広報課から依頼を受け、浜松市内大学地域貢献ネットワークの3大学から4名の学生が「浜松市への思い」を語りました。取材に応じた経営学科3年中津川ゼミの浅野舜也さんは、「浜松市には地域に根付いた祭りや魅力あるイベントが多い」と語り、地域に関係なく多くの人が集まるイベントがもっと増えることを願いました。

加藤太一さんは、「就職活動をしているなかで浜松市には魅力ある企業がたくさんあることを知った」と話し、浜松で働き、住み続けたいと語りました。また、3区になったことで「今までより市の一体感を感じられる街になったらうれしい」と結びました。



■ I Love しずおか協議会

静岡市街地での 清掃活動に参加

草薙・水落 C

11月16日、草薙・水落キャンパスの学生13名と職員7名が、I Love しずおか協議会主催の「おまちクリーンキャンペーン2023」に参加しました。「おまちクリーンキャンペーン」は静岡中心市街地“おまち”の活性化・快適な街環境の整備を目的とした取り組みであり、集まった79社・団体の約1,200人が、JR静岡駅周辺地域で路上に落ちているごみの収集を約1時間かけて行いました。常葉大学のグループは水落キャンパス周辺と伝馬町・鷹匠エリアの清掃作業に従事しました。



参加した学生からは、「早起きして、運動しながら街も綺麗にできて、とても気持ち良かった」「普段ならそのままにされるようなごみを拾うことで、静岡をきれいにすることができたような気がして嬉しかった」との感想が聞かれました。

■ 静岡市内の複数高等教育機関等

市民向け公開講座 (兼 SD 研修会) を開催

草薙 C

静岡市内の高等教育機関、自治体等が加盟する「静岡市文教エリア等の発展に向けた相互連携協議会」主催の公開講座（兼SD研修会）「子どもたちが安心して過ごせるまちを目指して」が2月16日に草薙キャンパスにて行われました。はじめに教育学部木宮敬信教授が登壇し、「安心」と「安全」の違いに着目して犯罪に強い街づくりのために必要なことについて紹介しました。続いて静岡市子ども若者相談センター職員から、社会問題となっている「ヤングケアラー」について、静岡市の実情を交えてお話がありました。参加した約50名の市民・教職員は熱心に耳を傾けており、「安心と安全はイコールではないことが目から鱗だった」「ヤングケアラーの実態や静岡市の支援体制を知ることができてよかった」といった感想が聞かれました。



■ (公財) 浜松市スポーツ協会

地域スポーツ指導者養成講習会修了式

浜松 C

2月21日「令和5年度 浜松市地域スポーツ指導者養成講習会修了式」が、浜松アリーナで行われ、心身マネジメント学科3年の岡田羽菜さん、深澤凜さん、若山萌瑠さんへ修了証が授与されました。本事業は意欲のある指導者を計画的に育成し、一貫した正しい指導法を身につけた地域スポーツ振興のリーダーを育成することを目的として行われ、本学では(公財)浜松市スポーツ協会と連携協定のもと講師派遣や学内での受講者を募集しています。学生たちは、スポーツ指導論やスポーツ経営学等、座学やテーピング講習やエアロビクス等の実技、スポーツイベントの運営や審判の実践活動を2年間で60単位を取得してきました。



浜松キャンパスの教員の専門性を活かし、今後も(公財)浜松市スポーツ協会と連携し、地域で活躍するスポーツ指導者の育成に貢献します。

No.	テーマ	所属	講師
1	高齢者指導での留意点・特徴	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	講師 井口 陸仁
2	小学生指導のコーチング	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	准教授 村本 名史
3	スポーツ栄養学	健康プロデュース学部 健康栄養学科	教授 三浦 綾子
4	スポーツコンディショニング	健康プロデュース学部 健康柔道整復学科	助教 眞鍋 和親
5	スポーツマネジメント コンプライアンス・ハラスメント	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	講師 神力 亮太
6	アンチドーピング スポーツ障害	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	教授 小柳 好生

スポーツ塾で講師を担当

浜松 C

8月23日、(公財)浜松市スポーツ協会が主催するスポーツ塾にて心身マネジメント学科井口ゼミの学生10名と吉田ゼミの学生4名が筋肉や神経の繋がりを向上させ運動神経を高める「コーディネーション」をテーマに教室を開講し、小学生120名を対象に6ブースに分かれ講師を務めました。



1ブース15分という短い時間の中で、授業で学んだことを活かし、吉田ゼミの学生は道具をうまく使えるように、お手玉やボール・ラケットを使用した運動を、井口ゼミの学生はバランスボールやラダーを使用し、頭で考えながら運動することを意識したトレーニングを行いました。

学生たちは学年や個人によるスキルの違いに目を配り、臨機応変に指導内容や説明の仕方を変える等、対応能力を身につけることができました。

キッズトレーニングを開催

浜松 C

心身マネジメント学科吉田准教授とゼミ生は、浜松市における子どもの運動能力の向上や運動機会の創出の課題解決に取り組んでいます。取組の1つとして、



(公財)浜松市スポーツ協会と連携をし、2歳から小学2年生を対象としたスポーツ教室「キッズトレーニング」を雄踏総合体育館で開催しています。

学生が大学で学んだことを基に、運動プログラムを考案し、指導を行う実践の場となっています。この活動が子どもたちのためにも、そして学生自身の将来のためにも役立つ活動になることを期待しています。

■ 静岡県警察

大学周辺でしずおかランニングパトロールを実施

草薙・浜松 C

地域をランニングしながらパトロールする「しずおかランニングパトロール」を実施しました。静岡地区では、保育学部今村ゼミや学生有志が、浜松地区では心身マネジメント学科木村ゼミの学生が活動し、大学周辺で小中学生の下校を見守りました。

参加した学生からは、「高校生の集団での自転車下校が危なく感じた。特に道が細いところ等、車との距離も近く危なかった」「地域の方に『ありがとう、頑張ってるね』と言われたときや挨拶を返してもらえた時には、とてもやりがいを感じた」との感想が聞かれました。

今後も活動を継続し、地域の安全に貢献していきます。



静岡県警察「闇バイト防止啓発活動」に協力参加

草薙 C

7月20日、草薙キャンパスのグラントーブルにおいて、静岡県警察が学生を対象に「闇バイト防止啓発活動」を行い、本学の学生有志10名が活動に協力しました。学生が集まりやすい昼休みの時間帯を活動時間とし、闇バイト防止のチラシを学生たちに配布しました。また、学内に設置されているデジタルサイネージでも闇バイト防止の案内を配信し、学生に広く周知しました。

参加した学生からは、「改めて防犯に対する意識が高まった」「同世代の私たちがチラシを配ることで、ほかの学生たちにも当事者意識を持ってもらえたら嬉しい」との感想が聞かれ、学生たちの防犯意識向上に貢献する活動となりました。



■ 日本財団ボランティアセンター

福島県いわき市被災地支援・視察

草薙・浜松 C

10月7日～9日、浜松キャンパスのボランティアサークルThunderBirdsの学生6名と社会環境学部の学生2名は、日本財団ボランティアセンターとの共催で、福島県いわき市被災地支援活動と被災地の視察を行いました。

福島県いわき市では、フェイスジョア農家を訪れ、2019年に起こった台風19号災害を経てどのように復興されてこられたか等、お話を伺いました。2日目には、2班に分かれ、オリーブ農園での支援活動と令和5年台風13号に伴う大雨災害のため被災した内郷地区での支援活動を行いました。10月の台風では、いわき市の10の河川が氾濫し、大きな被害が出ました。台風で浸水被害を受けた家屋はすでに多くのボランティアの方が活動をしており、この日は最終段階の拭き掃除を中心に行いました。初めて被災地支援活動に参加した健康栄養学科3年の長島啓士さんは、「1m以上の浸水の現場を初めて見た。同世代の学生がこんなに多く参加しているのに驚いた」と日本最大級の学生ボランティア団体ivusaとの出会いに刺激を受けていました。



最終日は、石巻南浜津波復興記念公園に向かい、石巻市震災遺構門脇小学校や伝承記念館を視察しました。ここでは、石巻市で語り部の活動をされている高橋匡美さんやアイリンプロジェクトの代表の菅原淳一さんとお会いし、災害当時の様子やこれまでの経緯、現状について、メディア等では報道されていない実体験に基づいたお話を伺うことができました。



表 彰

文化庁より令和5年度文化庁長官表彰 受賞 / 外国語学部 清ルミ名誉教授

文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興又は日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々に対し、その功績をたたえ文化庁長官が表彰する「文化庁長官表彰被表彰者」に清ルミ名誉教授が選ばれました。これは、清名誉教授が、永年にわたり日本語教師の養成研修や後進の育成に取り組み、また、地域で暮らす外国人支援のアドバイザーとして全国の自治体に助言、啓蒙活動を行う等、多文化共生社会の実現に尽力し、日本社会への日本語教育の浸透・普及に貢献してこられたことが評価されたものです。



文部科学省よりスポーツ功労者顕彰等に係る文部科学大臣顕彰 受章 / 保健医療学部 櫻井博紀准教授

本顕彰は、世界的規模のスポーツ競技会で優秀な成績を収めた選手及びその指導者、スポーツ審判員、そして、多年にわたりスポーツ活動を支援している団体に対してスポーツ功労者として顕彰されるものです。櫻井博紀准教授は、令和4年リオデジャネイロでのボッチャ世界選手権大会における好成績を受け、指導者として受章しました。



国立青少年教育振興機構法人ボランティア表彰及び感謝状 受賞 / 教育学部4年 竹内颯良・山本洵生

本表彰及び感謝状は独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施する「ボランティア養成事業」に継続的に参加し、イベントの運営補助や子どもたちへの活動支援・指導等での活躍を奨励し賞賛するものです。法人ボランティア表彰を竹内颯良さんが受賞しました。また、感謝状を山本洵生さんに授与しました。



浜松市青少年の表彰で「善行賞」受賞 / 健康プロデュース学部4年 田中稜真

本表彰は、地域の文化活動や奉仕活動等に積極的に取り組んでいる青少年や団体の活動を奨励し賞賛するもので、この度陸上競技部に所属する田中稜真さんが受賞しました。田中さんは、大学に入学後、陸上教室の開催や小学校での陸上指導を継続的に行い、また陸上選手を育てるために「足を速くする」トレーニング冊子の作成を行いました。これまでの活動が高く評価され受賞しました。



公開講座

本学が目指す「諸事業を通じた地域社会の活性化・進展に貢献する」という開かれた大学を象徴する事業の一環として、また、地域の皆様の生涯学習機会の一助となるよう、公開講座を毎年開催しています。

今年度は、「多様化する社会であなたを磨く」をテーマに全 14 講座を開催しました。

■ 令和 5 年度開講講座一覧

No.	講座名	所属	講師	回数
1	健康チェックで見えた！ 自分の身体と向き合うための具体的な運動と 栄養の対策	健康科学部 静岡理学療法学科 健康プロデュース学部 健康栄養学科	准教授 栗田 泰成 准教授 加藤 倫卓 教授 三浦 綾子	全 3 回
2	自分の歩き方を知り、健康増進を目指しましょう	保健医療学部 理学療法学科	准教授 松村 剛志	全 2 回
3	フレイルを予防して、健康寿命を延ばしましょう	保健医療学部 理学療法学科	准教授 青山 満喜	全 2 回
4	転倒予防の知識と運動	健康プロデュース学部 健康柔道整復学科	准教授 安井正佐也 講師 大塚 博史 助教 眞鍋 和親	全 2 回
5	健康寿命延伸からの well-being を目指して	保育学部 保育学科	准教授 今村 貴幸 助教 富田 エミ	全 3 回
6	いつまでも健康で美しく 東洋医学のセルフケア	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	准教授 藤田 格 講師 日野こころ	全 2 回
7	気象を学んで気象災害にそなえる	教育学部 初等教育課程	准教授 山根 悠介	全 4 回
8	ことばと文化 (2) 英語の世界の多様性を味わう	外国語学部 英米語学科	特任教授 戸田 勉 教授 ケヴィン・デミ 准教授 新妻 明子 准教授 ビーター・ハーディケン 助教 那須野絢子	全 5 回
9	自分を知り他者を知る心理学講座	健康プロデュース学部 こども健康学科	特任教授 柴田 俊一	全 5 回
10	食品の科学実験講座	教育学部 初等教育課程	准教授 三留 規誉	全 2 回
11	祝祭・祭祀から知る世界	外国語学部 グローバルコミュニケーション学科	教授 戸田 裕司 教授 増井 実子 教授 崔 慶原 准教授 江口 佳子	全 4 回
12	宮沢賢治童話集「注文の多い料理店」を今読むこと	短期大学部 日本語日本文学科	教授 小野田貴夫	全 2 回
13	大人が絵本をひらくとき Vol.10	短期大学部 日本語日本文学科	准教授 宮本 淳子	全 3 回
14	がんのリスクを減らす生活習慣を身につけよう	保健医療学部 理学療法学科	教授 太田 力	全 2 回

■ 開講講座

健康チェックで見た！自分の身体と向き合うための具体的な運動と栄養の対策 / 健康科学部

地域の中高年の方々を対象に開催した本講座は、本学の計測機器を用いて受講者の現在の身体機能を明らかにすること、その結果を基にした個人の健康増進対策の紹介や実践を目的として実施しました。講座では、①身体と運動機能の理解と計測、②運動機能の理解と対策、③栄養の理解と対策の3つのテーマにより学びを深めていただきました。受講者の皆様からは「実際の自分の数値を見ながらの説明が分かりやすかった」と好評をいただくとともに、健康科学部として、“地域で求められる健康増進事業”を再認識することができました。



転倒予防の知識と運動 / 健康プロデュース学部健康柔道整復学科



本講座は、転倒の詳しい原因を知り回避するための運動を学ぶことや転倒による後遺症を知ること、予防に対するモチベーションを向上させることを目的として開講しました。「転倒を知り予防する」では、転倒の原因を座学で学んだ後、実技を行いました。実技では、自宅で行える転倒予防体操を転倒のシチュエーションに沿って実際に体験し、楽しみながらトレーニングをすることができました。受講者からは「転倒の原因を新しい視点から知ることができた」とお話しいただきました。

いつまでも健康で美しく 東洋医学のセルフケア / 健康プロデュース学部健康鍼灸学科

本講座は、東洋医学のツボに注目し、実技等を通じて、近隣地域の方々の健康増進に寄与することを目的として開講しました。生理痛・頭痛の際のツボ「三陰交」等を学び、「ソマセプト」という刺さない鍼をツボに貼ることで血流を促進し、痛みを和らげる効果があることや、顔にあるツボを刺激して、表情筋を動かしたり、やすくセルフケアを紹介しました。「家族でやってみよう！タッチケア」では、はりきゅうで使うツボは押したりさすったりするだけでも効果があることから、お互いにタッチケアをすることでコミュニケーションが深まり、日頃のストレスを解消することもできることを学びました。講義の途中には温かいハーブティーによるティータイムが設けられ、受講者の皆さんから好評をいただきました。



大人が絵本をひらくとき Vol.10 / 短期大学部日本語日本文学科



本講座は、「子どもが読むもの」という印象が強い絵本をあえて大人の方々に紹介し、奥深い作品の世界と読解の楽しさを伝えるとともに、絵本を通じて心を整えるひとときを提供することを目的として開講しました。全3回の講座では、ベストセラーと呼ばれる不朽の名作について絵本学の視点で解説するとともに、実際に絵本を朗読しながら、心豊かな人生を送るヒントとしての絵本からのメッセージ等、絵本の魅力を広く紹介しました。講座終了後も、受講者と講師が絵本の感想を話し合ったり、おすすめの絵本を紹介したり、和気あいあいとした有意義な講座となりました。

とこは未来塾 – TU can Project –

本事業は、学生ならではのユニークな「視点と発想」をもち、「熱意と創意」に満ちた自主的・自発的な取組に対し、大学が教員アドバイザーによる助言や活動資金の援助等の支援を行っています。事業規模によりベーシックプランとライトプランがあり、開かれた大学づくりプロジェクト(A)、地域貢献・活性化プロジェクト(B)、現代的課題解決プロジェクト(C)の3つの分野(タイプ)で募集しています。この事業に取り組むことで、大学が立地する静岡県を中心とした地域社会への貢献を果たすとともに、学生の若い力を地域の活性化に結び付け、学生の社会性の醸成に繋がることを期待しています。

■ 令和5年度採択事業一覧

ベーシックプラン：本事業目的に即し、具体的かつ発展性のあるプロジェクトに対応するプラン

No.	分野(タイプ)	テーマ	グループ名	代表学生所属	
1	B	にしなサマーキッズカレッジ	リンク西奈 2023	教育学部	初等教育課程
2	B	しずおか「親子で行ける自然体験の場」の提案	小杉山ゼミ	社会環境学部	社会環境学科
3	B	SDGs で富士市・富士宮市を元気にしたい！	三井・池田ゼミ	社会環境学部	社会環境学科
4	C	三保半島のプラごみ調査 ～アクセサリ体験会を添えて～	山田建太ゼミ	社会環境学部	社会環境学科
5	C	「私たちのハッシュタグ#」常葉企画開発部！	赤塚・山屋ゼミ	保育学部	保育学科
6	B	サイエンスカフェ常葉	村井ゼミ	造形学部	造形学科
7	B	“ゼロ” から始める静岡人生設計 ～ by Life Plan Game ～	静岡活性隊	経営学部	経営学科
8	B	弁当開発食育講座プロジェクト ～子どもたち、そして地域の未来へ～	長芳ノ神	健康プロデュース学部	健康栄養学科
9	B	うなぎいもスイーツの開発プロジェクト	TOKOFARM	健康プロデュース学部	健康栄養学科
10	C	まるごとあそぶ・まなぶ防災プロジェクト	ThunderBirds	健康プロデュース学部	心身マネジメント学科
11	B	足を速くする秘密を大公開スペシャル	RED	健康プロデュース学部	心身マネジメント学科
12	B	地域連携×スポーツで地域活性プロジェクト	ぶれぐるラボ	健康プロデュース学部	心身マネジメント学科
13	B	小学校体育支援ボランティア	SMILE SUPPORTER	健康プロデュース学部	心身マネジメント学科

ライトプラン：本事業に挑戦しやすく、事業負担の少ないスタートアッププラン

No.	分野(タイプ)	テーマ	グループ名	代表学生所属	
1	B	高天神城跡マイクラ化プロジェクト	マイクラブ	造形学部	造形学科
2	B	チャレンジ バレーボール	トコハスポーツ サイエンススクール	健康プロデュース学部	心身マネジメント学科
3	B	ポッチャを通した生涯スポーツによる地域活性化	障☆スポ SC	保健医療学部	理学療法学科
4	B	果物廃棄の発生を抑制する試み	林原ゼミ	健康プロデュース学部	健康栄養学科

■ 中間発表 ※ベーシックプランのみ

ベーシックプラン 13 団体の活動の進捗報告として、各キャンパスの大学祭時に合わせてポスター発表を行いました。中間発表では、10 月までの取組内容や今後の展望が報告されました。

■ 事業報告会

3 月 7 日、「令和 5 年度とこは未来塾 -TU can Project- 事業報告会」を開催しました。オンラインを活用し、静岡草薙キャンパスと浜松キャンパスから 17 団体が報告を行い、地域の自治体、団体や企業ほか外部参加者及び大学関係者 145 名が参加しました。また、「地域貢献活動から得られること」をテーマに学生交流も行われ、学生たちは自らの活動の紹介や活動から得られた様々な経験を共有しました。さらなる発展が期待できる報告会となりました。



■ 取組事例

にしなサマーキッズカレッジ / リンク西奈 2023 ※ベーシックプラン

教育学部初等教育課程の学生有志は「児童間の協働的な学び」をテーマとして、西奈生涯学習センターと協働で、小学 2～5 年生を対象とした講座を夏・冬計 6 回実施しました。夏には「長くまわるコマを作ろう」と題して講座を実施しました。体験的な活動を取り入れ、グループでの話し合い活動を中心に活動を構想したため、児童が積極的に他者とのかかわる姿が見られ、活発な対話活動の機会になりました。また、学生は児童の実態を踏まえ声をかける等、適切なサポートについて考えることができました。



弁当開発食育講座プロジェクト～子どもたち、そして地域の未来へ～ / 長芳ノ神 ※ベーシックプラン

健康プロデュース学部健康栄養学科の学生有志は、成長期の子どもたちへの「食への意識改革」をテーマとし、始めにメーカーの協力を得て女性に好まれる栄養バランスのよい弁当を開発し販売しました。次に、その過程で学んだ知識を活かし、浜松市立都田小学校 5・6 年生を対象とした「栄養バランスのよい弁当の選び方講座」を実施しました。講座後のアンケートから、小学生の食に対する意識変化がみられ効果を実感することができました。



ボッチャを通じた生涯スポーツによる地域活性化 / 障☆スポ SC ※ライトプラン

保健医療学部の学生で構成する「障がい者スポーツサークル(障☆スポ SC)の学生有志は、障がいの有無や年齢などに関係なく、パラスポーツ競技の「ボッチャ」を通じて誰もが一緒にスポーツを楽しめる機会をつくろうと体験会を企画し開催しました。ボッチャ体験は、障がい者施設、小学校、協働センター等で、地域住民の方を対象として行いました。実施後には、知り合いに紹介したい、続けていきたいという意見があり交流の輪が広がりました。



地域交流・連携推進事業（学内助成事業）

本事業は、本学の教職員が個人及びグループで地域住民や関係機関等と連携を図って地域との交流・連携事業の取組みに対して大学が支援（所要経費の一部を交付）を行うものです。「地（知）の拠点」として地方自治体及び民間団体等と共同または連携して、地域や産業の活性化等を図ること、研究成果等を地域に還元または情報発信すること等を目的とした事業を行っています。

■ 令和5年度採択事業一覧

No.	研究テーマ名	所属	代表者
1	スポーツによる地域活性化を目指した「ベルテックス静岡」との連携事業	教育学部 生涯学習学科	教授 木宮 敬信
2	多文化共生ファシリテーター育成のための 地域自治体との連携プロジェクト 2023	外国語学部 英米語学科	教授 良知恵美子
3	中山間地の外国人住民へのオンライン日本語教育を通じた 多文化共生意識涵養の試み	外国語学部 グローバルコミュニケーション学科	教授 坂本 勝信
4	音楽・日本画・物語による静岡の自然とサウンドスケープの探究	短期大学部 音楽科	教授 井上 幸子

■ 地域連携事業実施報告会

9月には、令和4年度採択事業の実施報告会を開催しました。対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催し、学内外あわせて156名の方が参加しました。各採択事業の実施報告を受けて、参加者からは、「様々な実践的な



取組があり参考になった」「地域貢献活動の在り方、具体的な報告内容・教育内容等、非常に勉強になった」等の感想が寄せられました。また、第2部では、動画による地域連携活動の紹介を行いました。配信した動画は大学ホームページに掲載しています。



大学 HP はコチラ

地域交流・連携推進事業



教員による地域連携活動（動画配信）



地域連携活動の事例紹介

■ 子育て・教育

高校生との交流イベント 「本の広場」を開催

連携・協力 草薙キャンパス近隣の高校生

草薙 C
短期大学部

5月13日、高校生に新しい本との出会いの場を創出することを目的として、日本語日本文学科主催イベント「本の広場」を草薙キャンパスで開催しました。



このイベントは、日本語日本文学科の学生有志がお気に入りの一冊を持ち寄り、高校生に紹介するもので、当日は在学生10人が、集まった高校生に対し、実物を見せながら、お勧めの本を紹介しました。学生は、高校生に興味をもってもらえるよう、表現を工夫しながら物語の魅力を伝えており、会場は時折、笑い声や拍手も聞こえる等、和やかな雰囲気に包まれていました。学生と高校生は本を介して会話を弾ませたほか、短大生活や授業等についても、楽しそうに語り合いました。

焼津市和田公民館で 「多言語読み聞かせ」を実施

連携・協力 焼津市立焼津図書館

草薙 C
外国語学部

「多文化共生ファシリテーター育成のための地域自治体との連携プロジェクト」では、7月30日に焼津市和田公民館で「多言語読み聞かせ」を実施しました。このプロジェクトは、焼津市在住の外国籍住民が市立図書館を活用する機会を増やし、地域の子どもたちが外国文化に触れる機会を提供することを目的としています。外国語学部の学生6名が企画・実施し、日本語・英語・ポルトガル語での広報用チラシの作成や、教員の指導のもと絵本の選定や読み聞かせの方法について学びました。当日は、外国籍児童と日本人親子が参加し、楽しい時間を過ごしました。参加学生からは、「他者との意見交換やボランティア活動を通じて成長を感じた」という感想があり、多文化共生の社会的課題に取り組む貴重な機会となりました。



「竜太まつり」での出展 わくわく科学教室を開催

連携・協力 静岡市立井宮北小学校

草薙 C
理科学研究部

理科学研究部の学生有志10名は、静岡市立井宮北小学校で開催された「竜太まつり」に参加し、子どもたちに理科の楽しさと不思議を伝えることを目的として「人工いくら」と「土だんご」を作成するブースを出展しました。



当日は想像以上に多くの子どもたちがブースを訪れ、体験を楽しんでいました。参加した子どもたちのなかには、周りと競いながら夢中になって土だんごをピカピカに磨く様子が見られ、子どもたちの笑顔とかがつ真剣な姿を見ることができ、学生たちも元気をもらうことができました。また、「理科」を通して人とのつながりを育む機会を提供できました。今回の活動は、参加した子どもたちに限らず、学生にとっても意義のある活動になりました。

児童英語を活用した 英語活動を実施

連携・協力 近隣保育園・小学校

草薙 C
外国語学部

英米語学科の3・4年生が、大学で学んだ児童英語を活用して地域の子どもたちに向けて英語活動を行いました。10月には草薙キャンパスに近隣小学校に通う児童と保護者約40名を招きました。ハロウィンバージョンにアレンジした英語ゲームを行い、広いアリーナの中で体を動かしながら、楽しく英語に触れてもらう機会を提供しました。12月には近隣の保育園を訪問し、クリスマス为主题にした英語活動として、jingle bellsを英語で歌ったり、クリスマスに関する英単語を使ったゲームで遊んだりしました。英語活動の実践を通して、子どもたちの喜ぶ顔を見ることができる楽しさとともに、企画・実施の難しさ等、多くの学びを得ることができました。



■ 子育て・教育

科学イベント「サイエンスピクニック」にブース出展

連携・協力 静岡科学館る・く・る

草薙 C
社会環境学部

社会環境学科の黒田ゼミは、静岡科学館る・く・るで開催された科学イベント「サイエンスピクニック」に「顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう」と題し



ブースを企画・出展しました。このイベントは、来場者に自然や科学の楽しさを伝えることを目的として開催され、本学のブースでは参加した子どもたちにハンディ顕微鏡、実体顕微鏡、及び生物顕微鏡を使って身近にある色々なものを観察し、自然科学の基礎である実物を観察して自然の仕組みを理解する体験をしていただきました。夢中になって長い時間観察し、観察したものに素直に感動して興味を持つ子どもたちから、出展した教員と学生も大きな刺激を受けました。

「サイエンスカフェ常葉」を開催

連携・協力 ディスカバリーパーク焼津等

瀬名 C
造形学部

造形学科の村井ゼミは、専門家と参加者が対話しながら、社会を多様な視点で考える「サイエンスカフェ常葉」を全3回開催しました。サイエンスカフェは、地域の方々の



社会課題に対する関心と理解を深めることを目的として、企画・広報・集客・運営・報告までのプロセスを学生が行うため、学生にとって「場のデザイン力」を身につける機会にもなりました。全3回の開催で、参加者からは満足の声をいただくことができました。また、この取り組みを通じて、サイエンスカフェに参加された方々に対し、学びの視野の拡大、新たな交流の場を形作ることができました。

車いす生活を送る児童の学校生活支援ボランティア

連携・協力 静岡市教育委員会

水落 C
健康科学部

健康科学部の学生が静岡市内の小学校で、肢体不自由により車いす生活を送る児童の生活支援のボランティアを行いました。「学生スクールボランティア」の制度を使ったこの取組は、当初は学生4名の参加から始まり、小学校と協議や実践を重ねながら活動を広げ、



※写真は大学内での練習風景

現在は学生12名が参加する活動として定着しつつあります。小学校からは「参加学生のおかげで担任がほかの児童に目を配る余裕が生まれ助かる」等の声があり、参加学生からは「児童の成長が見られて嬉しい」「私たちを受け入れてくれる小学校に感謝したい」等の声がありました。医療専門職を目指す学生が、地域貢献を果たしつつ、障がいのある子どもとの関わりを実践的に学ぶという貴重な機会となりました。

浜松市内小学校で体育支援を実施

連携・協力 浜松市内小学校

浜松 C
健康プロデュース学部

心身マネジメント学科の教職課程履修学生らで構成するSMILE SUPPORTERは、浜松市内の小学校で体育の授業サポートを行っています。



教育現場で教員の人手不足が課題となっている現状を知り、児童の安全確保をするため、将来教員を目指す学生らが立ち上がりました。

今年は水泳やマット運動の授業支援を行いました。水泳の授業では、水に顔をつけることが苦手な児童や泳ぎが苦手な児童に声掛けや手助けを行い、水泳の楽しさを伝えました。今後も、浜松市内の学校と連携をして体育支援を継続して行っていく予定です。

■ 子育て・教育

キッズオープンキャンパスを開催

連携・協力 浜松市北消防署曳馬野出張所・自衛隊静岡地方協力本部・HondaFC

浜松 C
地域貢献センター

7月15日、「キッズオープンキャンパス」が浜松キャンパスで開催され、学生の日頃の学びを活かした20講座に約670名の親子が参加しました。本事業は、地域の子どもたちが大学の学びを体験し、知的好奇心を引き出し、夏休みの自由研究にも役立ててもらおうと開催するもので、今年度で11回目となります。教員の指導のもと、各学科から約250名の学生が講座を企画運営し、地域の子どもたちに新たな学びの場を提供しました。

「たのしくまなぼうさい」では、非常食の試食や被災時に使用できる防災ホイッスル作りを行い、実際に被災地でボランティアを行った学生から災害時の状況を子どもたちへ伝える防災教育を行いました。また「雑がみを使ってオリジナルしおりを作ろう！」では、SDGs 活動の啓発を兼ね、



ごみのリサイクルをするための分別方法や雑がみを利用したしおりの作成を楽しみました。

ほかにも、浜松市北消防署曳馬野出張所や自衛隊静岡地方協力本部の協力を得たブースを開講し、キャンパス内には自衛隊車両や消防車が登場し、普段は乗ることができない乗り物に子どもたちは感激していました。今年の特別企画としては、大河ドラマの「どうする家康」にちなみ、紙パックで作成した甲冑の展示や体験、家康クイズを行いました。さらには地元サッカークラブ Honda FC のパッサー口や出世大名家康くんも登場し、イベントを盛り上げました。



みんなの Kids Training (特別編) を開催

連携・協力 多目的施設 REANDY

浜松 C
健康プロデュース学部

心身マネジメント学科吉田ゼミを中心とした学生らは子どもたちの運動の機会を増加し、体を動かすことの楽しさを体感してもらうため、浜松市西区にある



多目的施設 REANDY の協力のもと「みんなの Kids Training」と題し、夏は水遊び、秋はハロウィンパーティーを開催しました。

ハロウィンパーティーでは、学生も子どもたちも思い思いの仮装をする仮装行列や、普段、なかなか経験できないかぼちゃのランタン作りをはじめ、Trick or Treat (ゲーム) や、ジャンボリミッキーのダンスを行いました。みんなで仮装をしながら、たくさん体を動かすことができました特別な一日を過ごすことができました。

浜松市内小学校で児童英語を開催

連携・協力 浜松市内小学校

浜松 C
健康プロデュース学部

1月25日、こども健康学科の福田鈴子准教授・平松なをみ非常勤講師と学生4名が、浜松市立気賀小学校の発達支援クラス1年生～6年生



を対象に「英語に触れて楽しく学ぼう」を開催しました。今回は保育者をめざす学生が、身体や音楽を使って英語を楽しんでもらおうと企画しました。アルファベットやイラストが書かれたカードを見せ、学生が身振り手振りでヒントを出すと、児童は想像力を働かせて思い思いに元よく回答していました。

また、音楽に合わせて学生が身体を大きく使って動物を表現すると、子ども達は笑顔になり、その動物を自慢げに言い当てていました。短い時間でしたが、楽しく英語を学び、児童の笑顔を引き出すことができました。

■ 一般・スポーツ

エスパルスホームゲームで パートナー活動に参加

連携・協力 清水エスパルス

6月18日と7月29日に、IAIスタジアム日本平で行われた、清水エスパルスホームゲームにおいて、草薙キャンパスの「常大祭り組」と「フットサルサークルF.I.T」の学生が、パートナー活動の一環としてハーフタイムに大学ののぼり旗を持ってピッチを一周しました。ピッチを一周する際には、笑顔で手を振り返してくれる等、観客の皆様から温かいご声援をいただきました。参加した学生たちもスタジアムの雰囲気を感じることができました。



草薙 C
常大祭り組
フットボールサークル F.I.T

シニアサッカーフェスティバルでの メディカルサポート

連携・協力 静岡県理学療法士会

静岡県小笠山総合運動公園エコパで開催された「第12回シニアサッカーフェスティバル」において、静岡水落キャンパスの学生ボランティアサークル「DEL SOLE〈静岡理学療法学科〉」のメンバー18名が理学療法士のトレーナー活動の補助に従事しました。大会のメディカルサポートを行う静岡県理学療法士会には、本サークル出身の卒業生も多数在籍しています。その中で学生は、理学療法士としてのスポーツ支援活動を現場で学び、卒業生との交流により自身の将来像や今後の目標を明確にする機会となりました。今後も医療職を目指す学生として、地域貢献活動へ積極的に参加していく予定です。



水落 C
DEL SOLE

しまだ大井川マラソン 「刺さない鍼」ケア活動

連携・協力 東洋レジン株式会社

10月29日に、健康鍼灸学科の学生14名が「第15回しまだ大井川マラソン in リバティ」において、刺さない鍼による参加ランナーへのケア活動を行いました。



刺さない鍼とは、皮膚表面への刺激により血流が増加し、関節の痛みや筋肉の可動域痛やこりの緩和を行う目的で利用する刺激ツールです。当日は競技前から多くの方に利用され、すでに痛みがある場所や、走っている途中に痛んでしまう箇所を中心に「刺さない鍼」を貼付しました。競技終了後には「少し楽に走れた」等の感想を多数いただき、競技前後を通して約300名の方々に利用いただきました。今後も学びを活かした活動を広げ、地域の方々の健康をサポートしていきます。

浜松 C
健康プロデュース学部

浜松シティマラソンでラン ナーのケア活動や運営補助

連携・協力 浜松市スポーツ振興課・(公財)浜松市スポーツ協会

2月18日に、浜松シティマラソンで、心身マネジメント学科の学生6名が吉田早織准教授、箱崎太誠講師とともに、マラソンを走り終えたランナーを対象にコンディショニングサポートを行いました。



コンディショニングサポートでは「疲れた体をリセット！ストレッチポール体験」と題し、118名の方にストレッチポールを使った7種類のストレッチ法を指導し、一人ひとりに寄り添いながら身体のサポートを行いました。このほかにも、今年度は学生実行委員会として学生5名が大会運営に携わり、表彰式の補助や誘導を行いました。学生たちは大勢のランナーや、イベントに関わる方々との交流を楽しみ、充実した一日となりました。

浜松 C
健康プロデュース学部

■ 防災・防犯

消費者月間街頭キャンペーンに参加協力

連携・協力 静岡県中部県民生活センター

水落 C
HOPE・JUSTICE

防犯サークル JUSTICE と、水落ボランティアサークル「HOPE」は、静岡県中部県民生活センターが主催する「消費者月間街頭キャンペーン」で、JR 静岡駅にて消費者トラブルへの注意を呼び掛ける活動に参加しました。本活動は、悪質なネット通販等による消費者トラブルの相談件数が増加していることから、静岡県中部県民生活センターが実施しました。活動に参加した学生らは、駅の利用者を対象に、消費者トラブルの主な相談内容や相談窓口を案内すると共に、啓発グッズを配布しました。活動に参加した学生は、「消費者トラブルは、誰にでもあることなので、多くの人にこの問題を知ってもらう必要があると感じた」と話しました。



サイバー防犯ボランティアの活動に参加

連携・協力 静岡県警察本部サイバー犯罪対策課

水落 C
法学部

法学部法律学科の学生が、静岡県警察主催「サイバー防犯ボランティア」の活動に参加しています。本活動は、安心して利用できるインターネット空間の構築や県民のサイバーセキュリティ意識向上を目的に、サイバー空間の浄化活動・被害防止のための教育活動・広報啓発活動等を行うものです。



7月18日、水落キャンパスで執り行われた委嘱式において、静岡県警察本部サイバー犯罪対策課長より学生7名が委嘱状を受け取り、その後、悪質サイトの通報をはじめとする様々な防犯活動を行いました。サイバー犯罪が深刻化している現状を学ぶとともに、学生ならではの視点を地域のために活かす機会となりました。

高齢者を対象に特殊詐欺被害防止講座を実施

連携・協力 静岡県細江警察署

浜松 C
健康プロデュース学部

5月16日、引佐多目的研修センターで、心身マネジメント学科木村ゼミの学生2名は、静岡県細江警察署と連携し、引佐地区老人クラブの会員を対象にした特殊詐欺被害防止講座を開催しました。



学生は、特殊詐欺に関するクイズで被害の実態を解説して、金融機関の窓口で預金小切手を活用して被害を防ぐ「預手プラン」を寸劇で紹介しました。

この活動に参加した心身マネジメント学科4年の井出飛人さんは「この活動を通じて、より多くの方が特殊詐欺に関心を持ち、周りの方々と共有してもらえれば、特殊詐欺が少しでも防げると感じた」と語りました。

まもろーる下校見守り活動を実施

連携・協力 浜松市立都田小学校

浜松 C
Thunder Birds

浜松キャンパスの近隣にある浜松市立都田小学校で、ボランティアサークル Thunder Birds の学生は児童の下校見守り活動「まもろーる」を行っています。



「まもろーる」とは、こどもの笑顔を守るとパトロールを掛け合わせた造語で、学生の視点と行動力で地域の安全を守る活動を行っています。

この地区では、遠方より少人数で通学している児童が多く、学生と一緒に下校することで犯罪の抑止力となっています。学生たちは児童との会話を楽しみながら、安全に家まで送り届けています。今後も地域の安心安全のために地域と連携しながら、活動を続けていきます。

■ 地域活動

中日本高速道路とオクシズ・サイクリングマップ制作

連携・協力 NEXCO 中日本・静岡市交通政策課

草薙 C
経営学部

経営学部山田ゼミと本学サイクリング同好会は中日本高速道路（NEXCO 中日本）と共同で、新東名高速道路静岡 SA（上り）



にある「自転車の駅」の認知度向上と、SA 近隣にあるオクシズ地区のサイクリングマップを制作しました。イベント当日はサイクリスト 24 名が SA に集まり、マップを片手にオクシズの清沢・大川・水見色地区でのサイクリングを楽しみました。

また、当日のイベントでは学生が SA の来客者の方々に對して、ポケットティッシュと高速道路マナーガイドを配付しました。参加した全ての学生にとって、人とのコミュニケーションの難しさと大切さを学ぶ良い体験となりました。

子ども食堂でテーブルゲームのブースを出展

連携・協力 NPO 法人 結び家

草薙 C
チーム LLL

NPO 法人結び家が焼津市で月 1 回ほど開催する「子ども食堂お結び」において、学生団体「チーム LLL」は、子ども向けのテーブルゲームブースを出展しました。

SNS で子ども食堂の活動を知り、自分たちも、子どもや保護者が安心して遊べる遊び場の提供という形で協力したいと思い、ゲームブースの出展を申し出ました。活動は約半年間継続的に実施しています。当日は約 30 種類のテーブルゲームを用意して、学生がファシリテートしながら、子ども食堂を利用する親子とゲームを楽しみました。地域の子育て支援に貢献するとともに、地域で活躍・挑戦できる場として、学生にとっても有益な活動となりました。



第 2 回三保海浜マラソンを開催

連携・協力 一般社団法人 3rings プロジェクト

草薙 C
社会環境学部

1 月 20 日、社会環境学科 3 年の宮城嶋開人さんは、旧三保飛行場で「第 2 回三保海浜マラソン」を開催しました。“三保地域の魅力を知ってもらおう”“スポーツの魅力を感じてもらおう”“三保



松原の保全活動の重要性を周知する”という想いから、実行委員長として、会議、飛行場の使用許可取得、協賛依頼、会場整備、当日の運営等を行いました。当日は約 450 人の来場者が訪れ、27 の企業やお店から協賛をいただきました。今年の大会は会場整備（草刈り）を B 型事業所に委託したことにより、効率的に広範囲に草刈りが行われ、整備された会場には温かい飲食物の露店が並びました。また、難波市長や清水和太鼓連絡会の方々が来てくださり、会場は活気のある声援に包まれました。

松坂屋静岡店で作品展開催 パンの商品開発

連携・協力 ピーターパン静岡・橋高校総合芸術コース美術

草薙 C
経営学部

経営学部 坪井ゼミでは、ピーターパン静岡（パン屋）×常葉大学附属橋高校総合芸術コース美術専攻とコラボし、「静岡を代表するようなパン」で「天空の抹茶®（おやいづ製茶）を主な原材料とし、ほかのパン屋さんでは真似が出来ないパン」



を基本コンセプトとした商品開発を進めています。

高校生、大学生が共にパンのイラスト、味のイメージ等をパン屋さんに提出。その中から選ばれた原案に沿っていくつかの試作品を製作し、初夏に第 1 回試食会、12 月に第 2 回試食会を実施して商品開発の最終段階に至りました。このあと引き続き、価格、販売時期の設定といったマーケティング戦略を固めた後、新商品が誕生する予定です。

■ 地域活動

アートイベント及び ワークショップを開催

連携・協力 静岡市文化振興財団

教育学部生涯学習学科と造形学部の学生 26 名は、「東静岡アート & スポーツ / ヒロバ」で、アートイベント及びワークショップを開催しました。



この場所は静岡市の市有地で、市及び静岡市文化振興財団がその利活用を進めており、社会と市民との関わりを学ぶことを目的に、授業「博物館実習」の一環として行いました。この日は「風のヒロバ」をテーマとし、学生たちは強い風が吹くこの場所の特性を生かした企画内容を考えました。風車を約 800 本飾って風が目に見えるように表したほか、来場者に風車、凧、シャボン玉を作成していただきました。2 日間の開催期間で 387 人の方が参加しました。

草薙・瀬名 C
教育学部・造形学部

ボードゲームで SDGs を学ぶ ワークショップを開催

連携・協力 浜松市立中ノ町小学校

造形学部・外国語学部の学生と土屋教授、ピーター・ハーディケン准教授、垂見非常勤講師は、浜松市立中ノ町小学校でボードゲーム



「FLOW」を使って SDGs を学ぶワークショップを開催しました。FLOW は、明治時代の静岡県、天竜川の歴史を題材とし、山に木を植えると川の防災に役立ち、育った木は材木となり、そして得た利益でまた木を植え、蔵を建てたりし、資源と経済が循環する持続可能（サステナブル）な関係性を学ぶことが目的の協力型ボードゲームです。参加した児童はゲームの背景やそのやり方を理解し、「山に木がないとゲームが終わってしまうことが分かった」「みんなの役割に得意なことがあるのが分かった」等の感想が聞かれました。

草薙・瀬名 C
外国語学部・造形学部

産学連携により 商品パッケージを開発

連携・協力 静岡県産業振興財団・フジ日本精糖株

造形学部の未来デザイン研究会 / 安武研究室は、静岡県産業振興財団の「戦略的デザイン創出」事業として、令和 4 年春よりフジ日本精糖株



式会社と産学連携による商品パッケージ開発を行い、令和 5 年 11 月にその商品が発売となりました。「イヌリーナ MY 腸活パウダー」は同社の食物繊維イヌリンを用いた整腸作用があるサプリメントであり、30 代女性に向けたコミュニケーション戦略ならびに外装を学生 5 名が担当しました。研究会ではマーケティングならびにデザインの専門知識を活かし、同社のスタッフと綿密な意見交換を繰り返した結果、経顧客層の生活感覚に違和感がない方針となりました。同商品は大手通販サイトより全国販売されています。

瀬名 C
造形学部

おおはまビーチフェスタでの 運営参加

連携・協力 おおはまビーチフェスタ実行委員会

水落 C
HOPE

6 月 4 日、静岡市駿河区の大浜海岸で開催された「おおはまビーチフェスタ 2023 浜ゆき」に、水落ボランティアサークル「HOPE」の学生



33 名が運営ボランティアとして参加しました。このイベントは、大浜海岸の自然の魅力を多くの人に知ってもらうために平成 20 年から市民有志で企画・開催しているイベントです。

ボランティアとして参加した学生らは、砂浜での砂遊びブースや、大浜海岸で採取した「よもぎ石」を使った石磨き体験ブース等、様々なブースの運営補助を担当し、訪れた子どもたちと一緒にイベントを楽しみました。

参加した学生からは、「大勢の子どもたちと触れ合えて楽しかった」等の感想が聞かれました。

■ 地域活動

牧之原市ヘサーフィンによる地域振興を提言

連携・協力 牧之原市 企画制作部 秘書政策課

水落 C
法学部

法学部丸岡ゼミの学生4名が、「サーフィンによる地域振興」をテーマに、地域社会における政策課題の研究を行いました。この取組は、



住民に身近な地方自治体の課題を探求し、解決策を模索する中で、地域で活躍する人材の育成を目指すものです。学生らは、東京五輪2020の追加種目のサーフィンとそのホストタウンも務めた牧之原市の地域振興との繋がりに着目し、同市の現状や他都市の事例等を調べながら議論を重ね、「波と共に成長する、サーフィンで学ぶ喜び」「バズル牧之原」等の4つの政策案をまとめました。同市職員からの講評を受け、研究の反省点や情報発信の大切さを理解する等、学生にとっては地域に対する学びや探求心を深める機会となりました。

都田朝市を開催

連携・協力 地元の生産者・販売者

浜松 C
地域貢献センター

11月5日・6日に、浜松キャンパスで都田朝市を開催しました。このイベントは、浜松市及び周辺地域における様々な農産物や加工品を展示・販売することで地産地消を推進し、都田地区から全域へ地域力をアピールすることを目的として行っています。



今年は中津川ゼミの2年生が運営に携わりステージでの商品紹介を行ったり、学生と地域の方がやり取りする場も多くみられ、世代を超えて交流を深めることができました。毎年、このイベントを楽しみにいただいている方も多く、例年出店されている店舗にはリピーターも訪れていました。(計17団体出店)

健康・スポーツフェスを開催

連携・協力 浜松市・各学部学科・部活動

浜松 C
地域貢献センター

11月4日・5日・25日、地域貢献センター HUVOC が主催する「健康・スポーツフェス2023」を開催しました。このイベントは、地域の方の健康増進や競技力向上、スポーツの楽しさを体感してもらうため、大学の専門性や日頃の学び、部活動での経験を多くの市民に提供し、交流することを目的としています。当日は、地域の子どもから高齢者まで幅広い年代の方々に参加していただきました。健康栄養学科・心身マネジメント学科・理学療法学科・作業療法学科は、地域の方々に自身の健康度や運動機能、認知機能の状況を再認識してもらうための様々な測定を行い、健康鍼灸学科・健康柔道整復学科は、学生や教員による痛みやけがの予防に関する相談を行いました。なかでも、作業療法学科は、モニター画面に表示される課題に対し、設置さ



れた5色の大きなボタンで回答する「デュアルタスク・カラータッチ」というゲームを活用し、脳と体を同時に動かすことで認知機能と体力の測定をしました。なかなか思うようにいかない方も見られ、自分自身を見直す機会となりました。

また、競技力向上や運動を楽しむ機会として、硬式野球部・陸上競技部・サッカー部・バスケットボール部によるスポーツ教室や、「親子で運動あそび」やパラスポーツイベントも開催しました。

このイベントはリピーターも多く、地域に根差した活動となっています。今後も、学生の学びや浜松キャンパスのスポーツ施設を活用した地域貢献活動を実施していきます。

■ 地域活動

大学生交流フェスタを開催

連携・協力 浜松市内大学地域貢献ネットワーク(浜松学院大、静岡文化芸術大、浜松医科大)・イオンモール浜松志都呂

浜松 C
地域貢献センター

9月23日・24日、浜松市内の学生がイオンモール浜松志都呂店で「わが街はままつ大学生交流フェスタ2023」を開催しました。これは、大学・学部、専門領域の垣根を超えて学生が集い、SDGs17の目標を意識した展示や体験イベントを通じて、「SDGs 未来都市・浜松」の推進のために開催されたもので、浜松市内大学地域貢献ネットワーク(常葉大学・浜松学院大学・静岡文化芸術大学・浜松医科大学)と学生実行委員会が主催しています。学生団体のほか、浜松市スポーツ振興課や地元企業3団体の計25団体に参加していただき、両日で延べ250名の学生が参加しました。

常葉大学は、経営学科・健康栄養学科・こども健康学科・心身マネジメント学科・健康鍼灸学科・作業療法学科各学科のゼミやサークルから9団体、また、陸上競技部やボランティアサークルThunderBirdsが参加しました。SUN & LEAF(こども健康学科)では、



SDGs 17の目標12番の「つくる責任つかう責任」と絡め、廃棄される紙パックやペットボトルキャップを使用したカスタネット等の楽器を作り、ステージで音楽に合わせ演奏会を行いました。経営学部中津川ゼミでは、天竜木材で作られた商品の販売を通じて、SDGs 17の目標15番の「森の豊かさを守ろう」を意識した陸の生き物や森林を守っていくことの大切さ、環境保全について啓発活動をしました。また、ステージでは天竜木材の活用についてプレゼンテーションやクイズを行い天竜地区ご当地キャラ「信康さん」が登場し、会場を盛り上げました。



浜北万葉まつりに協力

連携・協力 浜松市浜北区役所・伎倍の茶屋

浜松 C
フットサル部

10月22日、浜松市の万葉の森公園で「第28回浜松市浜北万葉まつり」が開催され、フットサル部が協力しました。この万葉まつりは、古の行事である「曲水の宴」や貴族の遊び「蹴鞠パフォーマンス」、万葉歌の披露等を行い、地域の方々に万葉文化に親しみ楽しんでいただくことを目的に開催されています。今回は、若者の参加を促し、盛り上げたいという浜松市の思いを受け、本学フットサル部が協力することになりました。



フットサル部は、古式ゆかしき伝統的なしきたりに基づき、儀式を行った後「蹴鞠」を披露しました。また、健康栄養学科の学生がレシピを考案した「万葉ラスク」「万葉クッキー」が販売され、イベントを盛り上げました。

産業振興フェア in いわたに出展

連携・協力 磐田市・磐田商工会議所・磐田市商工会

浜松 C
健康プロデュース学部

11月10日・11日、磐田市・磐田商工会議所・磐田市商工会が主催する「第13回産業振興フェア in いわた」に健康栄



養学科が出展しました。10日に参加した林原ゼミの学生は、はままつフルーツパークで廃棄される果物を使用した「梅ジャム」の試食会を行い、その味や活動について、アンケート調査をしました。11日に参加したTOKOFARM(健康栄養学科学生有志)は地元産のレモンとセロリーの規格外品を活用した「レモン小町」のサンプリングを行いながらSDGsへの取り組みを紹介しました。また、「うなぎいも」を使用したスイーツの開発の発表も行いました。2日間を通じて156名が訪れ、地域の企業や団体との連携を模索する機会となりました。

■ 地域活動

ジュビロ磐田でプロスポーツの世界について学ぶ

連携・協力 ジュビロ磐田

浜松 C
地域貢献センター

6月9日、浜松キャンパスの学生19名と教職員は、磐田市にあるヤマハスタジアムを訪問し、プロスポーツクラブの組織や運営、社会貢献活動について学びま



した。スポーツダイレクター補佐の岡田氏から「プロスポーツクラブや選手は地域の方やステークホルダーに『価値』を提供し、メディア・スポンサー・ファンの方からの資金や応援で成り立っている」と伺い、試合に勝つことだけでなく、サッカーを通じてスポーツの普及はもちろん、地域事業への参加等、社会貢献に取り組んでいることをお話いただきました。

今後もジュビロ磐田と人事交流を通じて今後の地域連携活動につなげていきます。

地場産業を伝統織物でPR カプセルトイ商品化

連携・協力 めくもり工房

浜松 C
経営学部

経営学科4年中津川ゼミの学生たちは、学びの一環として、地元の伝統品である遠州綿紬の普及活動に取り組んでいます。今回は、遠州綿紬を企画販売してい



るめくもり工房の協力を受けて、「遠州和はんかち」と学生達のメッセージカードが入った球体のカプセルトイを商品化し遠鉄百貨店本館5階に販売機が設置されました。子どもから大人まで幅広い年齢層に人気を博しているガチャで商品を販売することは、めくもり工房にとって初の試みで、学生のアイディアらしい企画として実現しました。学生たちのメッセージカードには、彼らの伝統織物普及への思いとともに大河ドラマ「どうする家康」の登場人物の紹介文が記載されています。

「第8回全国軽トラ市 in はままつ」に餃子店を出店

連携・協力 みんなの鴨ちゃん

浜松 C
経営学部

12月3日、鍛冶町通り等中心市街地で開催された「第8回全国軽トラ市 in はままつ」に経営学科3年村瀬ゼミが餃子店を出店しました。村瀬ゼミでは、浜松の食文化を代表す



る餃子で中心市街地の活性化に貢献したいと地元の人気店「みんなの鴨ちゃん」にご協力いただきオリジナルの焼き餃子を販売しました。

当日は、事前の広告宣伝や接客が功を奏し、30分待ちの行列ができることもあり、用意した900個のオリジナル餃子をすべて完売することができました。

地域貢献活動を通して実践的な学びを行うことができました。

「どすごい MAP」を作成

連携・協力 浜松市

浜松 C
経営学部

経営学科村瀬ゼミの学生が「Z世代が推す 浜松まちなかどすごい MAP」を作成しました。このマップは、NHK大河ドラマ「どうする家康」にちなんで、浜松大河ドラマ館を来訪された方に、浜松のまちなかを歩いて楽しんでもらいたいと、若者をターゲットにグルメ、雑貨等を中心にお店を選定・取材しました。



細かい説明は省略し、二次元コードで店舗の公式ホームページやSNSを通じて常に最新の情報にアクセスできるようにしています。裏面は、浜松大河ドラマ館から徒歩で行ける範囲内に限定し、紹介した店舗に家康公ゆかりの地を加えた地図を掲載しています。

■ 地域活動

引佐まちづくり協議会 ごみ減量動画の制作

連携・協力 引佐まちづくり協議会

浜松 C
地域貢献サークル Cocoa
SUN & LEAF

経営学科の学生で構成する「地域貢献サークル Cocoa」とこども健康学科の学生で構成する「SUN & LEAF」は、引佐まちづくり協議会と連携して「ごみ減量が学べるすごろく」の制作を行いました。



この活動は、浜松市が家庭ごみの有料化を検討しておりごみ問題について若者に関心を持ってもらいたいという依頼を受け始めました。

このすごろくには雑がみ、生ごみ、アップサイクルについて、それぞれ適切な処理方法がまとめられています。また、すごろくのマスの中には、二次元コードを添付し、1つ30～40秒の動画にアクセスすることができます。動画撮影では、ごみを効率的に減らす方法や食材を上手に活用できる方法等、計11個制作しました。

磐田さくら会議と連携事業 キッズイベントを開催

連携・協力 さくら会議(磐田市)

浜松 C
SUN & LEAF

こども健康学科の学生で構成するサークル「SUN & LEAF」は、磐田市中で街づくり活動をしている「さくら会議」と連携し、今之浦・安久路川



周辺に美しいさくらの回廊を作る活動や街なかのにぎわいを創出する活動を行っています。11月26日には、「秋のNature Bingo」を開催し、約50名の親子が参加しました。学生らは、あらかじめ公園内で見つけられそうな草木や桜の種類をお題にしたビンゴカードを作成しました。会場では、桜の説明をしたあと、カードのお題に書かれたものを探しながら、参加者と一緒に公園内を散策しました。自然を活用した保育を実践しており、日ごろの学びを活かし、五感や季節を体感できるイベントになるとともに、地域の魅力を知る機会になりました。

令和6年能登半島地震の被災地支援のための募金活動を実施

連携・協力 日本赤十字社・中日新聞社会事業団東海支部事務局(中日新聞東海本社内)

全キャンパス

令和6年1月1日に発生した石川県能登地方を震源とする地震を受け、本学では、各キャンパスで学生が被災地支援のための募金活動を実施しました。

静岡地区では、1月17日～1月26日の10日間、学生会や学生有志と協力し、学内で募金の呼びかけを行いました。集まった義援金115,753円は、日本赤十字社「令和6年能登半島地震災害義援金(石川県、富山県、新潟県)」として寄附しました。

浜松地区では、ボランティアサークルThunder Birdsの学生9名が、1月13・14日にJR浜松駅北口広場、遠鉄百貨店付近にて募金活動を実施しました。また、学内では1月29日まで募金箱を設置し支援を呼びかけ



ました。募金活動を企画した、心身マネジメント4年の今田悠月さんは、「多くの方に協力いただき関心の高さを感じた。この震災を自分事として捉え、普段から自分の身を守る行動につなげて欲しい」と話し、支援に対する感謝の意を伝えました。これらの活動を通して270,000円の義援金が集まり、中日新聞社会事業団東海支部事務局(中日新聞東海本社内)を通して被災地自治体へ寄附しました。

今回ご協力いただいた皆さまの温かいご支援・お気持ちに心から感謝するとともに被災された皆様の1日でも早い復興をお祈り申し上げます。

障がい・福祉

「高齢運転者支援フェスタ」で 体力測定ブースを出展

連携・協力 静岡県自動車学校

草薙 C
保育学部

10月12日にツインメッセ静岡で開催された静岡県自動車学校主催「高齢運転者支援フェスタ」にて、保育学部今村貴幸准教授とゼミに所属する学生3名が、「健康年齢チェック！」ブースを出展し、来場した高齢者向けに握力測定・立ち上がりテスト・2ステップテストの体力測定を行いました。測定後、今村准教授は参加者に対し、現在の体力を知った（気づき）うえで、自分に必要な体力や運動について個別にアドバイスをし、参加者は熱心に耳を傾けていました。「この企画を楽しみに来場した」という声が聞かれる等多くの方がブースを訪れ、学生との会話を楽しみながら和やかに測定が行われ、学生は参加者との交流を通じて地域貢献活動へのやりがいを感じる経験となりました。



高齢者施設で読み聞かせ ボランティアを実施

連携・協力 ショートステイ・まごころタウン静岡

草薙 C
短期大学部

日本語日本文学科の学生6名が、草薙キャンパスの隣にある高齢者施設ショートステイまごころタウン静岡にて、利用者を対象にした読み聞かせボランティアを行いました。



活動に参加した学生は、日本語日本文学科の専門科目「読み聞かせ」（担当：宮本淳子准教授）を履修した学生有志で、講義で学んだ読み方の工夫等を活かして実践に臨みました。

活動は11月以降、月に1回程度行いました。事前に週1回の打ち合わせ・準備を行い、当日は、絵本朗読はもちろん、レクリエーションや発声・早口言葉等、学生が自分たちで考えた企画を施設利用者の方々と一緒に楽しみました。

福祉施設と連携した メロンパン販売

連携・協力 就労継続支援 B 型事業所ボンド

草薙 C
保育学部

保育学部 赤塚・山屋ゼミは、ここは未来塾の活動の一環で、「就労継続支援 B 型事業所ボンド」と連携し、草薙キャンパスにて、福祉授産品（障がいのある方が作る商品）である「焼きたてメロンパン COCON」のメロンパンの販売会を実施しました。



この販売会は、福祉授産品を通じて障がいのある方と間接的につながる場を提供し、障がいのある方に対する無知や偏見による壁を解消することを目的として企画されました。学生は、就労支援施設やその施設を利用する方の紹介を交えた販促物を製作し、訪れた方に紹介しながら販売会を実施しました。購入者のアンケートでは、障がいのある方への働き方やイメージについて「身近に感じた」等の前向きな調査結果が得られました。

入野福祉まつりで ロコモ度チェックを実施

連携・協力 入野地区社会福祉協議会

浜松 C
健康プロデュース学部

9月24日、心身マネジメント学科井口ゼミの3年生6名が、浜松市入野協働センターで行われた入野地区社会福祉協議会主催の「福祉まつり」に参加し、地域住民を対象に「ロコモ度チェック」を行いました。



今回実施した「ロコモ度チェック」では、日常生活に関する25の質問調査、40cmから10cmまでの椅子からの立ち上がりテスト、2歩の歩幅を測定する2ステップテストの3つの方法を用い、訪れた40代から90代の方25名のロコモ度の測定結果をもとに健康づくりのアドバイスをしました。学生が授業で学んだ介護予防運動について実践できる貴重な経験の場となりました。

学外の助成事業を活用した連携事業

■ しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業

しずおか中部連携中枢都市圏と地域大学との連携拡大の促進や、大学の研究成果を地域の発展に活かすことを目的とし、地域課題の解決に向けた方策の提言・実践的な研究を各市町と一体となって実施する事業です。

（しずおか中部連携中枢都市圏：静岡市・島田市・焼津市・藤枝市・牧之原市・吉田町・川根本町）

No.	研究テーマ名	所属	代表者
1	首都圏テレワーカーへのプロモーション 及び本市への誘致策の提案（静岡市）	経営学部 経営学科	教授 小豆川裕子
2	人口減少が続く中山間地域の移住増加策の検討（静岡市）	経営学部 経営学科	准教授 山田 雅敏 助教 酒井 春花 助教 堀江 優希
3	「健康長寿・誰もが活躍のまち」 普及啓発に向けた分かりやすい広報戦略（静岡市）	造形学部 造形学科	教授 安武 伸朗
4	浜当目の歴史的資源を活用した地域活性化（焼津市）	外国語学部 英米語学科	助教 那須野絢子
5	「町民一人一スポーツの実現」に向けた事業運営戦略（吉田町）	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	准教授 村本 名史 講師 神力 亮太

■ 藤枝市地域政策研究・創造事業

藤枝市と本学との包括連携に関する協定の一環として、藤枝市の地域課題の解決に向けた学生参加による方策の提言、実践的な研究に対して助成される大学連携研究事業です。

No.	研究テーマ名	所属	代表者
1	岡部町の歴史文化や町としての魅力を体験するための 散策プラン及びマップの提案	造形学部 造形学科	教授 田宮 話子

■ ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ゼミ学生地域貢献推進事業」

大学・大学生と地域の交流の拡大を促進し、大学の研究成果を地域の発展につなげることを目的に、地域課題の解決に向けた方策の提言・実践的な研究を各市町や地元企業と一体となって実施する事業です。

No.	研究テーマ名	所属	代表者
1	中小製造業の業務改善調査（副業・兼業や DX の導入による効果） （富士市）	経営学部 経営学科	教授 小豆川裕子
2	保育活動内容と小学校の教科単元を結び付けた アプローチカリキュラムの作成（島田市）	保育学部 保育学科	教授 山本 睦
3	自治体における婚活支援の研究及び藤枝市ならではの婚活事業の企画 （藤枝市）	造形学部 造形学科	准教授 村井 貴

外部団体への講師派遣

地域の特性や受講者のニーズに合わせ、自治体や地域の生涯学習施設が実施する講座への講師派遣を行っています。ここでは、令和5年度に行った講師派遣の一例を紹介します。

講座名	所属	講師
静岡市生涯学習センター / 交流館での出前講座 <ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡経済の「今」～環境とビジネスのつながり～（葵） ・ めざせ防災マスター（葵） ・ 高齢者学級みのり大学（葵） ・ 高齢者学級みのり大学（西部） ・ ハロウィンのおはなし & ランタンづくり（北部） ・ 高齢者学級みのり大学（北部） ・ SDGs ターゲット 人材養成講座（藁科） ・ 朗読から学ぶ発声と表現力（西奈） ・ SDGs ターゲット 人材育成講座（西奈） ・ にしな歴史ガイド養成講座（西奈） ・ 高齢者学級みのり大学（西奈） ・ 思春期子育て講座（西奈） ・ SDGs ターゲット 人材養成講座（大里） ・ 高齢者学級みのり大学（駿河） ・ 清水の歴史的な景観と建築（駒越） ・ バランスボール体験（飯田） ・ 小泉八雲と静岡とのゆかりを聞く（高部） ・ ハザードマップから考える防災講座（有度） 	経営学部 経営学科 社会環境学部 社会環境学科 健康科学部 静岡理学療法学科 健康科学部 看護学科 外国語学部 英米語学科 外国語学部 英米語学科 社会環境学部 社会環境学科 短期大学部 日本語日本文学科 大学院 初等教育高度実践研究科 大学院 初等教育高度実践研究科 大学院 初等教育高度実践研究科 短期大学部 日本語日本文学科 大学院 初等教育高度実践研究科 健康科学部 静岡理学療法学科 造形学部 造形学科 短期大学部 保育科 外国語学部 英米語学科 社会環境学部 社会環境学科	准教授 林 信濃 教授 阿部 郁男 教授 青田 安史 准教授 駒井 裕子 助教 那須野絢子 助教 那須野絢子 教授 阿部 郁男 准教授 宮本 淳子 教授 安藤 雅之 教授 安藤 雅之 教授 安藤 雅之 准教授 宮本 淳子 教授 安藤 雅之 教授 青田 安史 講師 伊達 剛 准教授 田村 元延 助教 那須野絢子 教授 阿部 郁男
静岡市大学リレー講座 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ハザードマップをどう使うのか」を考えてみましょう 	社会環境学部 社会環境学科	教授 阿部 郁男
富士市民大学前期ミニカレッジ <ul style="list-style-type: none"> ・ たくましく、しなやかに「こころの健康」を守っていこう～無理なく学ぶ日常からのヒント～（全4回） 	教育学部 心理教育学科	教授 百瀬容美子 講師 中川 雄真 准教授 今岡 多恵 教授 伊東 明子
吉田町シニアカレッジ <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒット曲から学ぶ英語の発音 ・ 大人こそ、絵本に親しもう！（全2回） ・ 伝統医学におけるストレッチ「導引」と持続させる「ツボ」 ・ 自宅で出来る簡単ツボ押しセルフケア 	外国語学部 英米語学科 短期大学部 日本語日本文学科 健康プロデュース学部 健康鍼灸学科 健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	准教授 新妻 明子 准教授 宮本 淳子 准教授 関 真亮 准教授 村上 高康
常葉大学×アトリエセミナー 儲かり塾 <ul style="list-style-type: none"> ・ 分散型ネットワーク Web3.0 ・ ブロックチェーン（NFT） ・ 人工知能（AI）について ・ アントレプレナーシップによる人材育成・企業家創出編 ・ 金融試算と管理会計を正しく学びビジネスに活用する金融戦略編 	経営学部 経営学科	講師 長崎 洋康 講師 長崎 洋康 講師 長崎 洋康 准教授 村瀬 慶紀 准教授 秋山 盛
過去を知る・未来が見える～生涯学習の最先端9講座～ <ul style="list-style-type: none"> ・ 今から始める～アクティブエイジングのための知的食生活のすすめ～ 	健康プロデュース学部 健康栄養学科	教授 池谷 昌枝

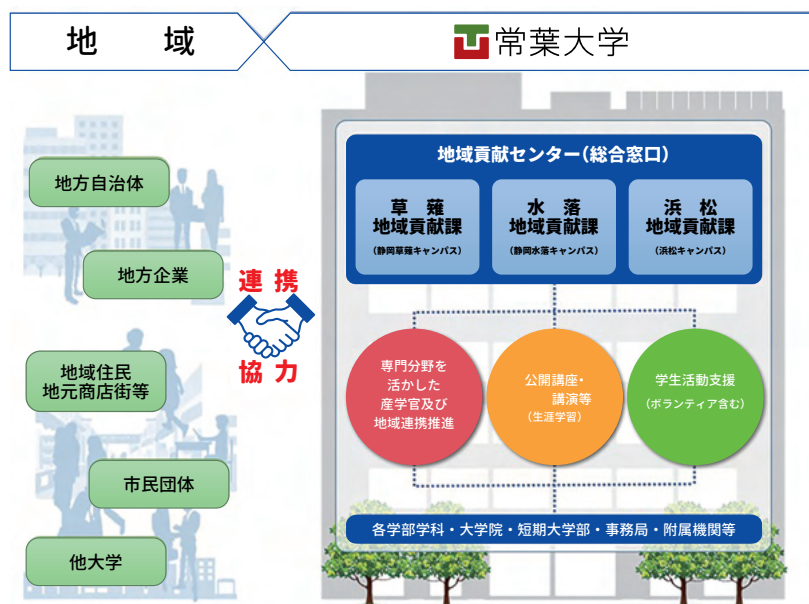
地域貢献センターのご案内

■ 地域貢献センター開設の目的

常葉大学は平成30年4月の静岡草薙キャンパス開設を機に、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、組織的に地域への貢献を促進するために、地域貢献センターを開設しました。地域社会における大学の役割は、「地(知)の拠点」として地域の方々の生涯学習の場を提供することや、地域や社会の課題を共に解決し、その活性化や新たな価値を創り出すための積極的な活動が求められています。

地域貢献センターは、地域・社会に貢献する学生の活動支援、地方自治体や地元企業等と本学教職員との連携・協力のコーディネート、地域の諸活動に係る情報収集・分析・調査、公開講座の運営等、様々な取組を通じて、

地域社会の活性化を図るとともに、地域社会に貢献できる人材をしていきます。また、地域と大学、地域と学生を結ぶ地域連携の拠点として、地域社会の発展に貢献していきます。



■ 取組・業務内容

専門を活かした産学官 及び地域連携推進	公開講座・講演等 (生涯学習)	学生活動支援 (ボランティア含む)	その他
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地元自治体・諸団体との連携 ◆ 学部・学科等の地域貢献活動の支援 ◆ 包括的連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 一般の方、地域住民の方(正規学生以外)に対する高等教育の提供 ◆ 外部資源を活かした教育・研究活動の充実 ◆ 施設の開放の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地元自治体はじめ諸団体との連携協力 ◆ 学部・学科等の地域貢献活動の支援 ◆ 学生独自の地域貢献活動への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域連携に関する情報管理・発信(広報活動)

■ 地域貢献活動実施件数報告

令和5年度の地域貢献活動実施件数は以下のとおりです。

令和5年度 ＜年間集計＞	大学主催		学生企画		外部依頼			合計	
区分	活動件数	活動人数	活動件数	活動人数	募集件数	活動件数	活動人数	活動件数	活動人数
子育て・教育	18	778	13	133	96	79	313	110	1224
障がい・健康福祉	3	24	1	5	27	13	81	17	110
一般スポーツ	1	26	2	17	41	29	134	32	177
防災・防犯	0	0	4	19	14	35	187	39	206
地域活動	30	636	30	258	219	124	556	184	1450
合計	52	1464	50	432	397	280	1271	382	3167

学生団体紹介（静岡キャンパス）

学生スタッフ Link

【団体紹介】

地域貢献やボランティア活動に興味を持つ学生有志の集まりです。
学生自身で考えたボランティアの企画・運営・情報発信も行っています。

【令和5年度の活動】

- しずおかランニングパトロール
- フードドライブ



チーム LLL

【団体紹介】

「生涯学習を通し『活躍できる場所と挑戦できる環境』を共に作る」を目標に活動しています。チームの約束は「やりたかったはなし。やりたいことを全部やろう」です。

【令和5年度の活動】

- 子ども食堂のボランティア
- 公務員仕事研究座談会



理科学研究部

【団体紹介】

科学教室を開き、子どもたちに理科の楽しさや不思議さを体験してもらう活動をしています。コロナ禍で活動がストップしてしまったので、今後はより活発に活動していきます。

【令和5年度の活動】

- 浜松科学館 理科学研究部科学教室
- わいわい祭り アイセル 21



つくしんぼ

【団体紹介】

静岡市内の「児童養護施設 静岡ホーム」にて活動しています。
施設の子どもの学習支援や、交流を深める活動を行っています。

【令和5年度の活動】

- 児童養護施設での学習支援



社会貢献サークル milk

【団体紹介】

ボランティア活動を通して社会に貢献し、社会に存在する様々な課題の発見・改善に尽力することで、社会性と連帯性を培うことを目的として活動しています。

【令和5年度の活動】

- 三保松原の清掃ボランティア（三保松原 3rings プロジェクト主催）



防犯サークル JUSTICE

【団体紹介】

地域防犯活動の担い手として、静岡県警察・防犯協会等、地域からの依頼を受けて活動しています。

【令和5年度の活動】

- 消費者月間街頭キャンペーン（静岡県中部県民生活センター）



Supporting Para-Sports

【団体紹介】

静岡県内の障がい者スポーツ大会を中心に、大会運営支援活動を行っています。障がい児（者）の社会参加を支え、共生の歩みを実現していくことを目的としています。

【令和5年度の活動】

- 第24回静岡県障がい者スポーツ大会（フライングディスク競技大会）
- 第24回静岡県障がい者スポーツ大会（ボウリング競技大会）



DEL SOLE

【団体紹介】

スポーツを楽しみながらイベントのボランティア活動に参加し、スポーツ現場での理学療法を学ぶことを目的として活動しています。

【令和5年度の活動】

- シニアサッカーフェスティバル ボランティア
- VELCollege



水落ボランティアサークル「HOPE」

【団体紹介】

多種多様なボランティア活動を行っています。
様々なボランティア活動に参加し、自分自身の成長を目的としています。

【令和5年度の活動】

- 大浜ビーチフェスタ 2023 浜ゆき
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン静岡



ミズオチ交流会

【団体紹介】

大学近くの商店街や市役所の方と協力して地域を盛り上げる活動をしています。
主に、商店街の活性化、駿府城公園の活用を目標にしています。

【令和5年度の活動】

- 七夕バザール
- すんぷらんぷ（駿府城公園中堀水辺活用事業）



学生団体紹介（浜松キャンパス）

ココスタ

浜松キャンパスの地域貢献センター HUVOC には、ゼミやサークル、クラブなど、積極的に地域貢献活動を行う 9 の団体が登録されています。各団体はそれぞれの特色を活かした地域貢献活動やボランティア活動を行っており、これらの団体が交流を深め、連携して活動することで、より幅広い地域の要請に応えることができるよう、各団体をまとめる組織として「ココスタ」が結成されました。定期的に会議や活動報告会を実施し、交流を深め、情報共有により、発展的な地域貢献活動に繋がっています。

地域貢献サークル Cocoa

【団体紹介】

経営学科の学生のみで構成されるサークルです。「経営学部での学びを活かし、地域活性化の一助となること」を目的として活動を行っています。

【令和 5 年度の活動】

- キッズオープンキャンパス「家康くんと歴史をまなぼう！」講座の実施
- 引佐まちづくり協議会との連携 ゴミ減量動画作成



食プロデュース

【団体紹介】

健康栄養学科の学生のみで構成されるサークルです。様々な人の健康をサポートしつつ学生自身の知識や技能を深めながら活動を行っています。

【令和 5 年度の活動】

- 浜北万葉まつり レシピ考案
- フリーペーパー「Jr.Athlete」「JUMP」遠鉄レシピ解説、栄養コラム提供



SUN & LEAF

【団体紹介】

こども健康学科の学生で構成されるサークルです。子どもたちや地域のためにイベントやボランティア活動、勉強会を行っています。

【令和 5 年度の活動】

- 浜北区役所・区振興課との連携「赤ちゃんフォトコンテスト」の開催
- 静岡大学と連携してキッズイベントの開催



木村ゼミ

【団体紹介】

社会貢献・ボランティア教育をテーマに活動を行っています。学生が主体となり常に地域と連携し、地域の課題解決にチャレンジしています。

【令和 5 年度の活動】

- 「あなたのお金を守る！特殊詐欺すごろく講座」の開講
- 地域の見守り活動「まもろーる」の実施



ぷれぐろラボ

【団体紹介】

アスリートのパフォーマンス改善やこどもの体力 UP、運動機会の提供を行っています。運動を通して子どもの健幸と成長をサポートします。

【令和 5 年度の活動】

- キッズオープンキャンパス「とこはオリンピック 2023」講座の開講
- （公財）浜松市スポーツ協会との連携「キッズトレーニング」教室の開催



SinQ

【団体紹介】

健康鍼灸学科の学生のみで構成されるサークルです。「刺さない鍼」や「美容鍼」等、鍼灸や東洋医学の知識や技術を通して様々な地域貢献活動を行っています。

【令和 5 年度の活動】

- 浜松市と大学との連携事業「自分でできるセルフケア」講座の開講
- しまだ大井川マラソン in リバティにて刺さない鍼によるランナーケアブース



障☆スポ SC

【団体紹介】

パラスポーツ大会運営補助やパラスポーツの普及・啓蒙活動を行っています。パラスポーツを通じてインクルーシブな社会の実現を目指しています。

【令和 5 年度の活動】

- 浜松市と大学との連携事業「ボッチャを楽しみながら学ぶ」の開催
- 福祉施設にてパラスポーツ大会の運営補助



ThunderBirds

【団体紹介】

「僕らが今、できること」をモットーに緊急時の災害支援活動や地域防犯、子ども地域活動等、地域のニーズに応じて幅広く活動を行っています。

【令和 5 年度の活動】

- キッズオープンキャンパス「たのしくまなぼうさい」講座の実施
- 福島県いわき市被災地支援・被災地視察



陸上競技部

【団体紹介】

部活動の経験を活かし、地域の子どもたちに走る楽しさを伝え、競技力向上に貢献しています。

【令和 5 年度の活動】

- （公財）浜松市スポーツ協会との連携「足を速くする教室」の開催
- 富士山女子駅伝、浜松シティマラソン等の運営補助



発行 令和 6 年 3 月

常葉大学 地域貢献センター



常葉大学
常葉大学短期大学部

公式ホームページ

<https://www.tokoha-u.ac.jp/>



[草薙地域貢献課]

〒422-8581
静岡市駿河区弥生町6-1
TEL : 054-297-6142

[水落地域貢献課]

〒430-0831
静岡市葵区水落町1-30
TEL : 054-297-3200

[浜松地域貢献課]

〒431-2102
浜松市浜名区都田町1230
TEL : 053-428-6748

※記載されている教員の職位および学部・学科の名称は令和 6 年 3 月時点でのものです
※令和 6 年 4 月付で以下の学科は名称を変更いたします

旧	教育学部 初等教育課程	→	新	教育学部 学校教育課程
	大学院 初等教育高度実践研究科			大学院 学校教育研究科